

**COPOLYMER, METHOD FOR MANUFACTURING THE SAME, AND RADIATION-SENSITIVE RESIN COMPOSITION****Publication number:** JP2003335826 (A)**Publication date:** 2003-11-28**Inventor(s):** NISHIMURA YUKIO; NISHIMURA ISAO**Applicant(s):** JSR CORP**Classification:****- international:** G03F7/039; C08F4/32; C08F232/00; C08F234/02; G03F7/039; C08F4/00; C08F232/00; C08F234/00; (IPC1-7): C08F232/00; C08F4/32; C08F234/02; G03F7/039**- European:****Application number:** JP20020144897 20020520**Priority number(s):** JP20020144897 20020520**Abstract of JP 2003335826 (A)**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a radiation-sensitive resin composition, particularly a copolymer useful as a resin component of the same, high in transparency to radiation; excellent in basic characteristics of a resist such as sensitivity, resolution, and pattern configuration; concurrently high in dry etching resistance and adhesion to the substrate; and excellent in developability and conservation stability. ; **SOLUTION:** The copolymer has a repeating unit derived from a monomer represented by 1-ethylcyclopentyl ester or by 2-ethyladamantan-2-yl ester, etc., of a carboxy group-containing norbornene compound; and another repeating unit derived from a lactone monomer represented by 2(5H)-furanone or by its derivative, etc. In the copolymer, the content of the former repeating unit accounts for more than 30 mol% of the repeating units in total. The radiation- sensitive resin composition contains the copolymer and a radiation-sensitive acid generator. ; **COPYRIGHT:** (C) 2004,JPO

---

Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-335826

(P2003-335826A)

(43)公開日 平成15年11月28日 (2003.11.28)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テ-マコト <sup>*</sup> (参考)
C 0 8 F 232/00		C 0 8 F 232/00	2 H 0 2 5
4/32		4/32	4 J 0 1 5
234/02		234/02	4 J 1 0 0
G 0 3 F 7/039	6 0 1	G 0 3 F 7/039	6 0 1

審査請求 未請求 請求項の数5 O.L (全 38 頁)

(21)出願番号 特願2002-144897(P2002-144897)

(71)出願人 000004178

J S R株式会社

東京都中央区築地五丁目6番10号

(22)出願日 平成14年5月20日(2002.5.20)

(72)発明者 西村 幸生

東京都中央区築地二丁目11番24号 ジェイ  
エスアール株式会社内

(72)発明者 西村 功

東京都中央区築地二丁目11番24号 ジェイ  
エスアール株式会社内

(74)代理人 100100985

弁理士 福沢 優明

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 共重合体とその製造方法および感放射線性樹脂組成物

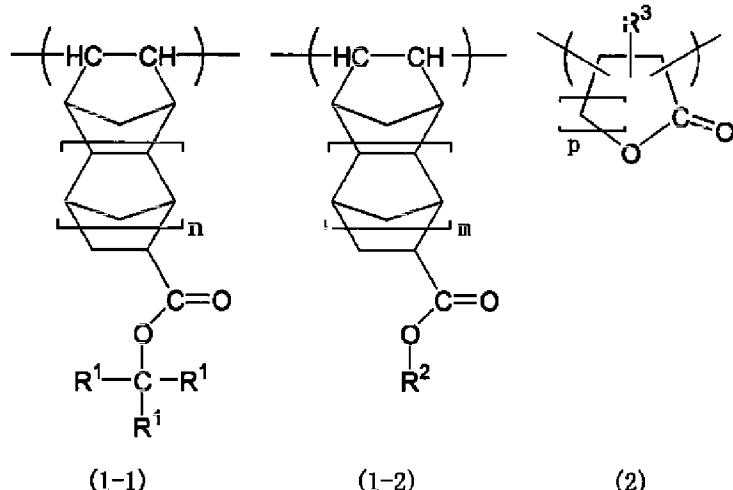
(57)【要約】

【課題】 放射線に対する透明性が高く、感度、解像度、パターン形状等のレジストとしての基本特性に優れ、高いドライエッキング耐性と基板への高い密着性を両立でき、かつレジストとしての現像性および保存安定性にも優れた感放射線性樹脂組成物、特に当該感放射線性樹脂組成物における樹脂成分として有用な共重合体を提供する。

【解決手段】 共重合体は、カルボキシル基含有ノルボルネン系化合物の1-エチルシクロペンチルエステルや2-エチルアグマンタン-2-イルエステル等に代表される単量体に由来する繰り返し単位と、2(5H)-フランやその誘導体等に代表されるラクトン系単量体に由来する繰り返し単位とを有し、前者の繰り返し単位の合計含有率が全繰り返し単位の30モル%を超える共重合体からなる。感放射線性樹脂組成物は、該共重合体および感放射線性酸発生剤を含有する。

## 【特許請求の範囲】

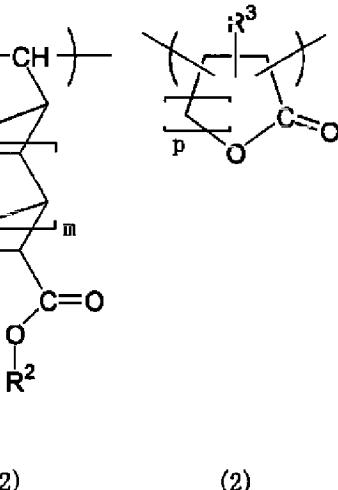
【請求項1】 下記一般式(1-1)で表される繰り返し単位および下記一般式(1-2)で表される繰り返し単位の群から選ばれる少なくとも1種と、下記一般式(2)で表される繰り返し単位とを有し、一般式(1-1)で表される繰り返し単位と一般式(1-2)で表さ



〔一般式(1-1)において、各R<sup>1</sup>は相互に独立に炭素数4～20の1価の脂環式炭化水素基もしくはその誘導体または炭素数1～4の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基を示し、かつR<sup>1</sup>の少なくとも1つが該脂環式炭化水素基もしくはその誘導体であるか、あるいは何れか2つのR<sup>1</sup>が相互に結合して、それぞれが結合している炭素原子と共に炭素数4～20の2価の脂環式炭化水素基もしくはその誘導体を形成し、残りのR<sup>1</sup>が炭素数1～4の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基または炭素数4～20の1価の脂環式炭化水素基もしくはその誘導体を示し、nは0～2の整数である。一般式(1-2)において、R<sup>2</sup>は炭素数1～20の直鎖状もしくは分岐状の1価の有機基、炭素環もしくは複素環の脂環式骨格を有する炭素数4～20の1価の有機基(但し、一般式

れる繰り返し単位との合計含有率が全繰り返し単位に対して30モル%を超える、ゲルパーキエーションクロマトグラフィー(GPC)による重量平均分子量が1,000～300,000である共重合体。〕

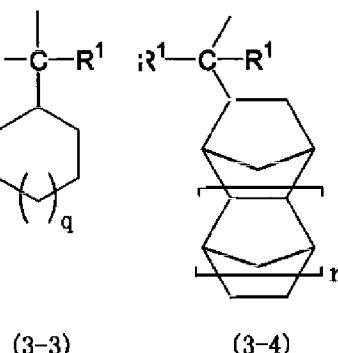
## 【化1】



〔(1-1)における-C(R<sup>1</sup>)<sub>3</sub>に相当する基を除く。〕、またはラクトン骨格を有する1価の有機基を示し、mは0～2の整数である。一般式(2)において、R<sup>3</sup>は水素原子、炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基、または炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキシル基を示し、pは0～4の整数である。〕

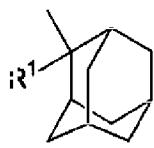
【請求項2】 一般式(1-1)における-C(R<sup>1</sup>)<sub>3</sub>に相当する構造が下記式(3-1)～(3-4)で表される基および下記式(4-1)～(4-4)で表される基の群から選ばれる少なくとも1種であることを特徴とする、請求項1に記載の共重合体。

## 【化2】

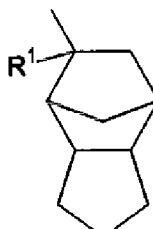


〔式(3-3)および(3-4)において、qおよびrはそれぞれ0～2の整数である。〕

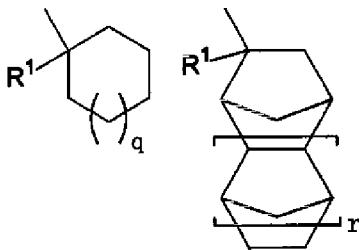
## 【化3】



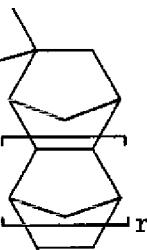
(4-1)



(4-2)



(4-3)

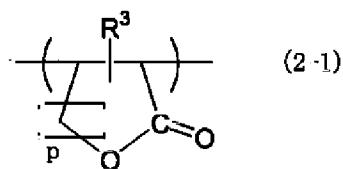


(4-4)

〔式(4-3)および(4-4)において、qおよびrはそれぞれ0～2の整数である。〕

【請求項3】 一般式(2)で表される繰り返し単位が下記一般式(2-1)で表される繰り返し単位であることを特徴とする、請求項1に記載の共重合体。

【化4】

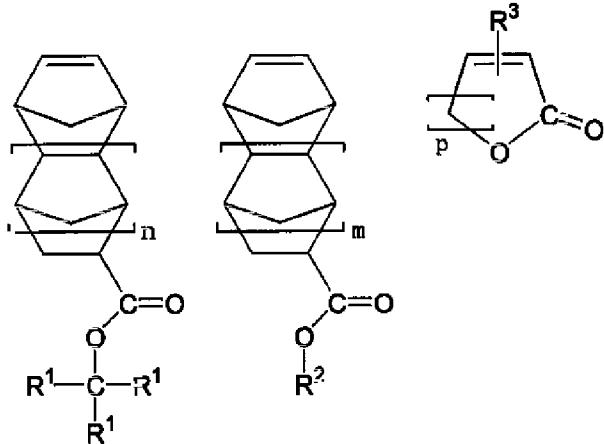


(2-1)

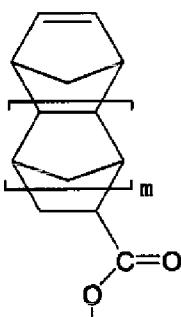
〔一般式(2-1)において、R³は水素原子、炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基、または炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキシル基を示し、pは0～4の整数である。〕

【請求項4】 下記一般式(i-1)で表される化合物および下記一般式(i-2)で表される化合物の群から選ばれる少なくとも1種と、下記一般式(ii)で表される化合物とを、過酸化物を重合開始剤として重合することを特徴とする、請求項1に記載の共重合体の製造方法。

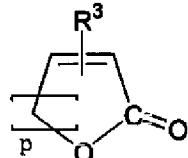
【化5】



(i-1)



(i-2)



(ii)

〔各式中、R¹およびnは請求項1に記載の一般式(1-1)のそれぞれR¹およびnと同義であり、R²およびmは請求項1に記載の一般式(1-2)のそれぞれR²およびmと同義であり、R³およびpは請求項1に記載の一般式(2)のそれぞれR³およびpと同義である。〕

【請求項5】 (A) 請求項1に記載の共重合体であって、それ自体アルカリ不溶性またはアルカリ難溶性であり、酸の作用によりアルカリ可溶性となる共重合体、および(B) 感放射線性酸発生剤を含有することを特徴とする感放射線性樹脂組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、感放射線性樹脂組成物に関わり、さらに詳しくは、KrFエキシマレーザー

ーあるいはArFエキシマレーザー等の遠紫外線、電子線等の荷電粒子線、シンクロトロン放射線等のX線の如き各種の放射線を使用する微細加工に有用な化学增幅型レジストとして好適に使用することができる感放射線性樹脂組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】 集積回路素子の製造に代表される微細加工の分野においては、より高い集積度を得るために、最近では0.20μm以下のレベルでの微細加工が可能なりソグラフィー技術が必要とされている。しかし、従来のソグラフィープロセスでは、一般に放射線としてi線等の近紫外線が用いられているが、この近紫外線では、サブクオーターミクロノンレベルの微細加工が極めて困難であると言われている。そこで、0.20μm以下のレベルでの微細加工を可能とするために、より波長の

短い放射線の利用が検討されている。このような短波長の放射線としては、例えば、水銀灯の輝線スペクトル、エキシマレーザーに代表される遠紫外線、X線、電子線等を挙げることができるが、これらのうち、特にKrFエキシマレーザー（波長248nm）あるいはArFエキシマレーザー（波長193nm）が注目されている。このようなエキシマレーザーによる照射に適した感放射線性樹脂組成物として、酸解離性官能基を有する成分と放射線の照射（以下、「露光」という。）により酸を発生する成分（以下、「感放射線性酸発生剤」という。）とによる化学増幅効果を利用した組成物（以下、「化学増幅型感放射線性組成物」という。）が数多く提案されている。化学増幅型感放射線性組成物としては、例えば、特公平2-27660号公報には、カルボン酸のチープチルエステル基またはフェノールのチープチルカーボナート基を有する重合体と感放射線性酸発生剤とを含有する組成物が提案されている。この組成物は、露光により発生した酸の作用により、重合体中に存在するチープチルエステル基あるいはチープチルカーボナート基が解離して、該重合体がカルボキシル基あるいはフェノール性水酸基からなる酸性基を有するようになり、その結果、レジスト被膜の露光領域がアルカリ現像液に易溶性となる現象を利用したものである。

【0003】ところで、従来の化学増幅型感放射線性組成物の多くは、フェノール系樹脂をベースにするものであるが、このような樹脂の場合、放射線として遠紫外線を使用すると、樹脂中の芳香族環に起因して遠紫外線が吸収されるため、露光された遠紫外線がレジスト被膜の下層部まで十分に到達できないという欠点があり、そのため露光量がレジスト被膜の上層部では多く、下層部では少なくなり、現像後のレジストパターンが上部が細く下部にいくほど太い台形状になってしまい、十分な解像度が得られないなどの問題があった。その上、現像後のレジストパターンが台形状となった場合、次の工程、即ちエッティングやイオンの打ち込みなどを実行する際に、所望の寸法精度が達成できず、問題となっていた。しかも、レジストパターン上部の形状が矩形でないと、ドライエッティングによるレジストの消失速度が速くなってしまい、エッティング条件の制御が困難になる問題もあった。一方、レジストパターンの形状は、レジスト被膜の放射線透過率を高めることにより改善することができる。例えば、ポリメチルメタクリレートに代表される（メタ）アクリレート系樹脂は、遠紫外線に対しても透明性が高く、放射線透過率の観点から非常に好ましい樹脂であり、例えば特開平4-226461号公報には、メタクリレート系樹脂を使用した化学増幅型感放射線性樹脂組成物が提案されている。しかしながら、この組成物は、微細加工性能の点では優れているものの、芳香族環をもたないため、ドライエッティング耐性が低いという欠点があり、この場合も高精度のエッティング加工を行うことが

困難であり、放射線に対する透明性とドライエッティング耐性とを兼ね備えたものとは言えない。

【0004】また、化学増幅型感放射線性組成物からなるレジストについて、放射線に対する透明性を損なわないで、ドライエッティング耐性を改善する方策の一つとして、組成物中の樹脂成分に、芳香族環に代えて脂肪族環を導入する方法が知られており、例えば特開平7-234511号公報には、脂肪族環を有する（メタ）アクリレート系樹脂を使用した化学増幅型感放射線性組成物が提案されている。しかしながら、この組成物では、樹脂成分が有する酸解離性官能基として、従来の酸により比較的解離し易い基（例えば、テトラヒドロピラニル基等のアセタール系官能基）や酸により比較的解離し難い基（例えば、チープチルエステル基、チープチルカーボネート基等のチープチル系官能基）が用いられており、前者の酸解離性官能基を有する樹脂成分の場合、レジストの基本物性、特に感度やパターン形状は良好であるが、組成物としての保存安定性に難点があり、また後者の酸解離性官能基を有する樹脂成分では、逆に保存安定性は良好であるが、レジストの基本物性、特に感度やパターン形状が損なわれるという欠点がある。さらに、この組成物中の樹脂成分には脂肪族環が導入されているため、樹脂自体の疎水性が非常に高くなり、基板に対する接着性の面でも問題があった。

【0005】さらに見方を変えると、今日知られているArFエキシマレーザーに代表される光源に適用される化学増幅型感放射線性組成物に用いられる代表的な樹脂には、メタクリル系、交互共重合系、付加重合系等があるが、それぞれの組成物には長所および短所が存在する。即ち、メタクリル系樹脂を用いた組成物は保存安定性や基板への密着性に優れる反面、ドライエッティング耐性（エッティング速度および表面平滑性）が劣り、交互共重合系樹脂を用いた組成物はドライエッティング耐性に優れる反面、レジストの保存安定性が劣り、さらに付加重合系樹脂を用いた組成物はドライエッティング耐性および保存安定性に優れる反面、基板に対する密着性が劣るという問題がある。そして、これらの組成物における長所と短所との兼ね合いから、現在では保存安定性と基板への密着性に優れるメタクリル系樹脂が主に用いられているが、さらに微細化が進行するとみられる半導体デバイスにとっては、その組成物のドライエッティング耐性の問題が大きな障壁となってくる。そこで、半導体素子における微細化の進行に対応しうる技術開発の観点から、遠紫外線に代表される短波長の放射線に適応可能な化学増幅型感放射線性組成物において、放射線に対する透明性が高く、しかもレジストとしての基本特性に優れた新たな樹脂成分の開発が重要な課題となっている。

【0006】また、新しい樹脂を用いた化学増幅型感放射線性組成物として、特開2002-82441号公報に、 $\alpha$ -アンゲリカラクトン、 $\alpha$ -メチレンブチロラク

トン等のラクトン骨格を有するモノマーに由来する繰り返し単位と、(メタ)アクリレート、無水マレイン酸およびノルボルネンの群から選ばれる少なくとも1つのモノマーに由来する繰り返し単位とを有する感光性ポリマー、および感放射線性酸発生剤を含有するレジスト組成物が提案されており、この組成物は、放射線に対する透明性、基板への密着性、ドライエッキング耐性、溶解コントラスト等が良好で、また露光後の加熱処理までの引き置き時にもレジスト被膜の周囲雰囲気に対する安定性が高いとされているが、特にドライエッキング耐性(エッキング速度および表面平滑性)の点では必ずしも十分とはいえない。

## 【0007】

【発明が解決しようとする課題】本発明の課題は、前記諸問題に鑑み、放射線に対する透明性が高く、感度、解像度、パターン形状等のレジストとしての基本特性に優れるのみならず、高いドライエッキング耐性(エッキング速度および表面平滑性)と基板への高い密着性を両立

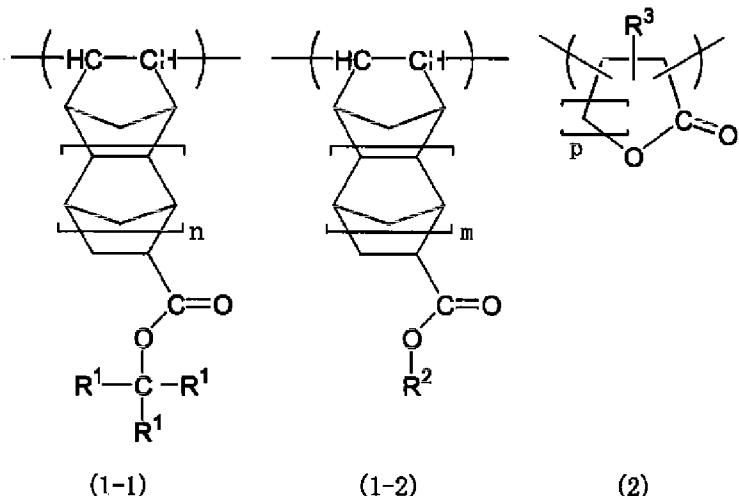
でき、かつレジストとしての現像性および保存安定性にも優れた感放射線性樹脂組成物、特に当該感放射線性樹脂組成物における樹脂成分として有用な共重合体、並びに当該共重合体の製造方法を提供することにある。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】本発明によると、前記課題は、第一に、下記一般式(1-1)で表される繰り返し単位および下記一般式(1-2)で表される繰り返し単位の群から選ばれる少なくとも1種と、下記一般式(2)で表される繰り返し単位とを有し、一般式(1-1)で表される繰り返し単位と一般式(1-2)で表される繰り返し単位との合計含有率が全繰り返し単位に対して30モル%を超える、ゲルパーセーションクロマトグラフィー(GPC)による重量平均分子量が1,000~300,000である共重合体によって達成される。

## 【0009】

## 【化6】



【0010】【一般式(1-1)において、各 $\text{R}^1$ は相互に独立に炭素数4~20の1価の脂環式炭化水素基もしくはその誘導体または炭素数1~4の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基を示し、かつ $\text{R}^1$ の少なくとも1つが該脂環式炭化水素基もしくはその誘導体であるか、あるいは何れか2つの $\text{R}^1$ が相互に結合して、それぞれが結合している炭素原子と共に炭素数4~20の2価の脂環式炭化水素基もしくはその誘導体を形成し、残りの $\text{R}^1$ が炭素数1~4の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基または炭素数4~20の1価の脂環式炭化水素基もしくはその誘導体を示し、nは0~2の整数である。】

【0011】一般式(1-2)において、 $\text{R}^2$ は炭素数1~20の直鎖状もしくは分岐状の1価の有機基、炭素環もしくは複素環の脂環式骨格を有する炭素数4~20の1価の有機基(但し、一般式(1-1)における $-\text{C}$

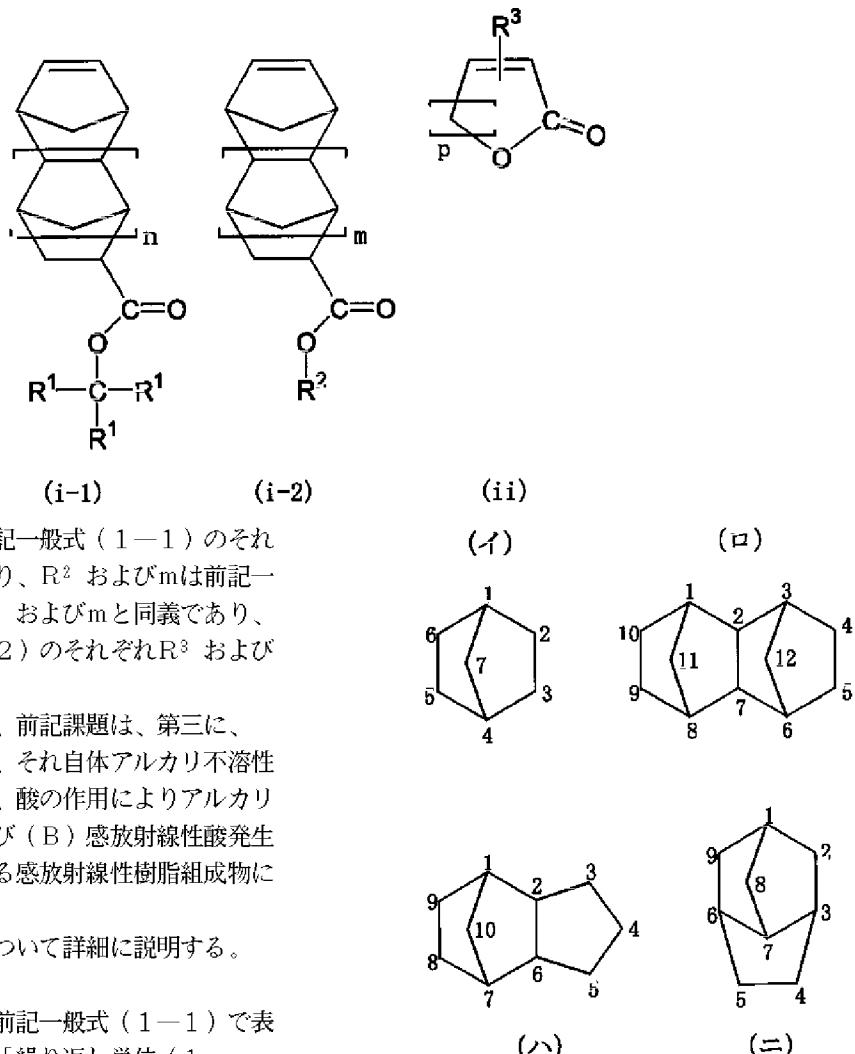
$(\text{R}^1)_3$ に相当する基を除く。)、またはラクトン骨格を有する1価の有機基を示し、mは0~2の整数である。】

【0012】一般式(2)において、 $\text{R}^3$ は水素原子、炭素数1~5の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基、または炭素数1~5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキシル基を示し、pは0~4の整数である。】

【0013】本発明によると、前記課題は、第二に、下記一般式(i-1)で表される化合物および下記一般式(i-2)で表される化合物の群から選ばれる少なくとも1種と、下記一般式(ii)で表される化合物とを、過酸化物を重合開始剤として重合することを特徴とする、前記共重合体の製造方法によって達成される。】

## 【0014】

## 【化7】



〔各式中、 $R^1$  および  $n$  は前記一般式（1-1）のそれ  
ぞれ  $R^1$  および  $n$  と同義であり、 $R^2$  および  $m$  は前記一  
般式（1-2）のそれぞれ  $R^2$  および  $m$  と同義であり、  
 $R^3$  および  $p$  は前記一般式（2）のそれぞれ  $R^3$  および  
 $p$  と同義である。〕

【0015】本発明によると、前記課題は、第三に、  
(A) 前記共重合体であって、それ自体アルカリ不溶性  
またはアルカリ難溶性であり、酸の作用によりアルカリ  
可溶性となる共重合体、および(B) 感放射線性酸発生  
剤を含有することを特徴とする感放射線性樹脂組成物に  
よって達成される。

【0016】以下、本発明について詳細に説明する。  
共重合体(A)。

本発明における共重合体は、前記一般式（1-1）で表  
される繰り返し単位（以下、「繰り返し単位（1-  
1）」という。）および前記一般式（1-2）で表され  
る繰り返し単位（以下、「繰り返し単位（1-2）」と  
いう。）の群から選ばれる少なくとも1種と、前記一般  
式（2）で表される繰り返し単位（以下、「繰り返し単  
位（2）」という。）とを有し、一般式（1-1）で表  
される繰り返し単位と一般式（1-2）で表される繰り  
返し単位との合計含有率が全繰り返し単位に対して30  
モル%を超える、ゲルパーキエーションクロマトグラフ  
ィ（GPC）による重量平均分子量が1,000~30  
0,000である共重合体（以下、「共重合体（A）」  
といふ。）からなる。

【0017】共重合体（A）における繰り返し単位（1-  
1）および繰り返し単位（1-2）では、主鎖が有橋  
式炭化水素骨格を有するとともに、側鎖にも有橋式炭化  
水素骨格を有することができる。そこで、主な有橋式炭化  
水素骨格における炭素原子の位置番号を次に示す。

【0018】

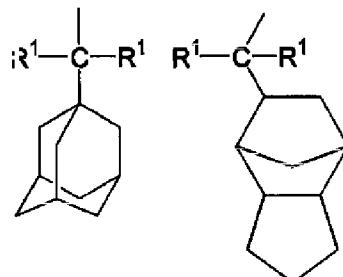
【化8】

【0019】ここで、(イ)はビシクロ[2.2.1]  
ヘプタン、(ロ)はテトラシクロ[6.2.1.1  
<sub>3,6</sub>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン、(ハ)はトリシクロ[5.  
2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン、(ニ)はトリシクロ[4.  
2.1.0<sup>3,7</sup>]ノナンである。以下における有橋式炭化  
水素骨格の命名は、これら(イ)~(ニ)に従うもの  
とする。

【0020】一般式（1-1）において、 $R^1$  の炭素数  
4~20の1価の脂環式炭化水素基および何れか2つの  
 $R^1$  が相互に結合して、それぞれが結合している炭素原  
子と共に形成した炭素数4~20の2価の脂環式炭化水  
素基としては、例えば、アグマンタン、ビシクロ[2.  
2.1]ヘプタン、テトラシクロ[6.2.1.1  
<sub>3,6</sub>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン、トリシクロ[5.2.1.0  
<sup>2,6</sup>]デカン等の有橋式炭化水素類や、シクロブタン、  
シクロペンタン、シクロヘキサン、シクロヘプタン、シ  
クロオクタン等のシクロアルカン類等に由来する基；こ  
れらの基を、例えば、メチル基、エチル基、n-ブロピ  
ル基、i-ブロピル基、n-ブチル基、2-メチルブロ  
ピル基、1-メチルブロピル基、t-ブチル基等の炭素  
数1~4の直鎖状、分岐状もしくは環状のアルキル基の

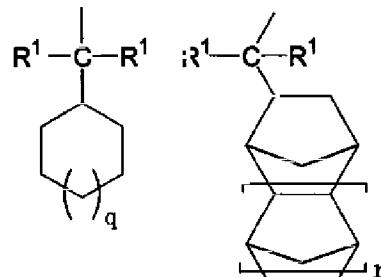
1種以上あるいは1個以上で置換した基等を挙げることができる。

【0021】また、前記1価または2価の脂環式炭化水素基の誘導体としては、例えば、ヒドロキシル基；カルボキシル基；オキシ基（即ち、=O基）；ヒドロキシメチル基、1-ヒドロキシエチル基、2-ヒドロキシエチル基、1-ヒドロキシプロピル基、2-ヒドロキシプロピル基、3-ヒドロキシプロピル基、2-ヒドロキシブチル基、3-ヒドロキシブチル基、4-ヒドロキシブチル基等の炭素数1～4のヒドロキシアルキル基；メトキシ基、エトキシ基、n-プロポキシ基、i-ブロポキシ基、n-ブロキシ基、2-メチルブロポキシ基、1-メチルブロポキシ基、t-ブロキシ基等の炭素数1～4のアルコキシル基；シアノ基；シアノメチル基、2-シアノエチル基、3-シアノブロピル基、4-シアノブチル基等の炭素数2～5のシアノアルキル基等の置換基を1種以上あるいは1個以上有する基を挙げることができ



(3-1)

(3-2)

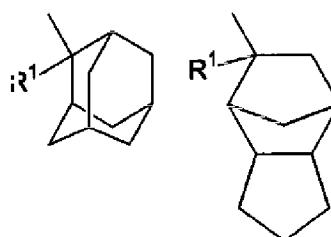


(3-3)

(3-4)

〔式(3-3)および(3-4)において、qおよびrはそれぞれ0～2の整数である。〕

【0025】また、何れか2つのR<sup>1</sup>が相互に結合して、それぞれが結合している炭素原子と共に炭素数4～20の2価の脂環式炭化水素基もしくはその誘導体を形



(4-1)

(4-2)

〔式(4-3)および(4-4)において、qおよびrはそれぞれ0～2の整数である。〕

【0027】一般式(1-1)において、-C(R<sup>1</sup>)<sub>3</sub>に相当する好ましい構造の具体例としては、1-メチルシクロペンチル基、1-メチル-2-ヒドロキシシクロペンチル基、1-メチル-3-ヒドロキシシクロペンチル基、1-メチル-2-シアノシクロペンチル基、1-メチル-3-シアノシクロペンチル基、1-エチルシ

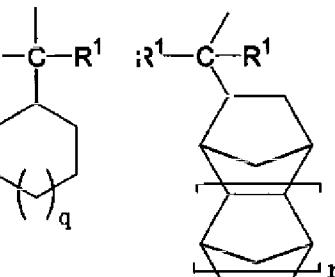
る。これらの置換基のうち、ヒドロキシル基、カルボキシル基、ヒドロキシメチル基、シアノ基、シアノメチル基等が好ましい。

【0022】また、R<sup>1</sup>の炭素数1～4の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基としては、例えば、メチル基、エチル基、n-ブロピル基、i-ブロピル基、n-ブチル基、2-メチルブロピル基、1-メチルブロピル基、t-ブチル基等を挙げることができる。これらのアルキル基のうち、メチル基、エチル基、n-ブロピル基等が好ましい。

【0023】一般式(1-1)において、少なくとも1つのR<sup>1</sup>が炭素数4～20の1価の脂環式炭化水素基もしくはその誘導体である場合の-C(R<sup>1</sup>)<sub>3</sub>に相当する好ましい構造としては、例えば、下記式(3-1)～(3-4)で表される基等を挙げることができる。

【0024】

【化9】



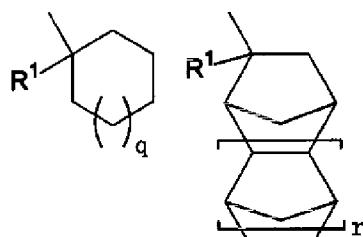
(3-3)

(3-4)

成した場合の-C(R<sup>1</sup>)<sub>3</sub>に相当する好ましい構造としては、例えば、下記式(4-1)～(4-4)で表される基等を挙げることができる。

【0026】

【化10】



(4-3)

(4-4)

ロペンチル基、1-エチル-2-ヒドロキシシクロペンチル基、1-エチル-3-ヒドロキシシクロペンチル基、1-エチル-2-シアノシクロペンチル基、1-エチル-3-シアノシクロペンチル基、1-メチルシクロヘキシル基、1-メチル-3-ヒドロキシシクロヘキシル基、1-メチル-4-ヒドロキシシクロヘキシル基、1-メチル-3-シアノシクロヘキシル基、1-メチル-4-シアノシクロヘキシル基、1-エチルシ

シル基、1-エチル-3-ヒドロキシクロヘキシリ  
基、1-エチル-4-ヒドロキシクロヘキシリ基、1  
-エチル-3-シアノシクロヘキシリ基、1-エチル-  
4-シアノシクロヘキシリ基等の1-アルキルシクロア  
ルキル基およびその誘導体；

【0029】4-メチルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、4-メチル-9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、4-メチル-10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、4-メチル-9-シアノテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、4-メチル-10-シアノテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、4-エチルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、4-エチル-9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、4-エチル-10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、4-エチル-9-シアノテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、4-エチル-10-シアノテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、4-エチル-8-メチルトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル基、8-メチル-4-ヒドロキシトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル基、8-メチル-4-シアノトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル基、8-エチルトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル基、8-エチル-4-ヒドロキシトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル基、8-エチル-4-シアノトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル基、8-エチル-4-ヒドロキシトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル基、8-エチル-4-シアノトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-

－イル基等のアルキル置換有橋式炭化水素基およびその誘導体；

【0030】(ジメチル)(シクロペンチル)メチル基、(ジメチル)(2-ヒドロキシシクロペンチル)メチル基、(ジメチル)(3-ヒドロキシシクロペンチル)メチル基、(ジメチル)(2-シアノシクロペンチル)メチル基、(ジメチル)(3-シアノシクロペンチル)メチル基、(ジエチル)(シクロペンチル)メチル基、(ジエチル)(2-ヒドロキシシクロペンチル)メチル基、(ジエチル)(3-ヒドロキシシクロペンチル)メチル基、(ジエチル)(2-シアノシクロペンチル)メチル基、(ジエチル)(3-シアノシクロペンチル)メチル基、(ジメチル)(シクロヘキシル)メチル基、(ジメチル)(3-ヒドロキシシクロヘキシル)メチル基、(ジメチル)(4-ヒドロキシシクロヘキシル)メチル基、(ジメチル)(3-シアノシクロヘキシル)メチル基、(ジメチル)(4-シアノシクロヘキシル)メチル基、(ジエチル)(シクロヘキシル)メチル基、(ジエチル)(3-ヒドロキシシクロヘキシル)メチル基、(ジエチル)(4-ヒドロキシシクロヘキシル)メチル基、(ジエチル)(3-シアノシクロヘキシル)メチル基、(ジエチル)(4-シアノシクロヘキシル)メチル基、(ジメチル)(シクロヘプチル)メチル基、(ジメチル)(3-ヒドロキシシクロヘプチル)メチル基、(ジメチル)(4-ヒドロキシシクロヘプチル)メチル基、(ジメチル)(3-シアノシクロヘプチル)メチル基、(ジメチル)(4-シアノシクロヘプチル)メチル基、(ジエチル)(シクロヘプチル)メチル基、(ジエチル)(3-ヒドロキシシクロヘプチル)メチル基、(ジエチル)(4-ヒドロキシシクロヘプチル)メチル基、(ジエチル)(3-シアノシクロヘプチル)メチル基、(ジエチル)(4-シアノシクロヘプチル)メチル基等の(ジアルキル)(シクロアルキル)メチル基およびその誘導体；

エチル) (5-ヒドロキシビシクロ [2. 2. 1] ヘプタン-2-イル) メチル基、(ジエチル) (6-ヒドロキシビシクロ [2. 2. 1] ヘプタン-2-イル) メチル基、(ジエチル) (5-シアノビシクロ [2. 2. 1] ヘプタン-2-イル) メチル基、(ジエチル) (6-シアノビシクロ [2. 2. 1] ヘプタン-2-イル) メチル基、

【0032】(ジメチル)(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジメチル)(9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジメチル)(10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジメチル)(9-シアノテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジメチル)(10-シアノテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジエチル)(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジエチル)(9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジエチル)(10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジエチル)(9-シアノテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジエチル)(10-シアノテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジエチル)(10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジエチル)(9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジエチル)(10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジエチル)(9-シアノテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジエチル)(10-シアノテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル基、(ジエチル)(トリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカ-8-イル)メチル基、(ジメチル)(4-ヒドロキシトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカ-8-イル)メチル基、(ジメチル)(4-シアノトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカ-8-イル)メチル基、(ジエチル)(トリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカ-8-イル)メチル基、(ジエチル)(4-ヒドロキシトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカ-8-イル)メチル基、(ジエチル)(4-シアノトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカ-8-イル)メチル基、(ジアルキル置換・有橋式炭化水素基置換メチル基およびその誘導体):

【0033】(メチル)(ジシクロペンチル)メチル基、(メチル)[ジ(2-ヒドロキシシクロペンチル)]メチル基、(メチル)[ジ(3-ヒドロキシシクロペンチル)]メチル基、(メチル)[ジ(2-シアノシクロペンチル)]メチル基、(メチル)[ジ(3-シアノシクロペンチル)]メチル基、(エチル)(ジシクロペンチル)メチル基、(エチル)[ジ(2-ヒドロキシシクロペンチル)]メチル基、(エチル)[ジ(3-ヒドロキシシクロペンチル)]メチル基、(エチル)[ジ(2-シアノシクロペンチル)]メチル基、(エチル)[ジ(3-シアノシクロペンチル)]メチル基、

(メチル) (ジシクロヘキシル) メチル基、(メチル)  
〔ジ(3-ヒドロキシシクロヘキシル)〕メチル基、  
(メチル) [ジ(4-ヒドロキシシクロヘキシル)] メ  
チル基、(メチル) [ジ(3-シアノシクロヘキシ  
ル)] メチル基、(メチル) [ジ(4-シアノシクロ  
ヘキシル)] メチル基、(エチル) (ジシクロヘキシル)  
メチル基、(エチル) [ジ(3-ヒドロキシシクロヘキ  
シル)] メチル基、(エチル) [ジ(4-ヒドロキシシ  
クロヘキシル)] メチル基、(エチル) [ジ(3-シア  
ノシクロヘキシル)] メチル基、(エチル) [ジ(4-シア  
ノシクロヘキシル)] メチル基、(メチル) (ジシ  
クロヘプチル) メチル基、(メチル) [ジ(3-ヒドロ  
キシシクロヘプチル)] メチル基、(メチル) [ジ(4-  
ヒドロキシシクロヘプチル)] メチル基、(メチル)  
[ジ(3-シアノシクロヘプチル)] メチル基、(メチ  
ル) [ジ(4-シアノシクロヘプチル)] メチル基、  
(エチル) (ジシクロヘプチル) メチル基、(エチル)  
[ジ(3-ヒドロキシシクロヘプチル)] メチル基、  
(エチル) [ジ(4-ヒドロキシシクロヘプチル)] メ  
チル基、(エチル) [ジ(3-シアノシクロヘプチ  
ル)] メチル基、(エチル) [ジ(4-シアノシクロ  
ヘプチル)] メチル基等の(アルキル) (ジシクロアルキ  
ル) メチル基およびその誘導体；

【0034】(メチル) [ジ(アダマンタン-1-イル) ]メチル基、(メチル) [ジ(3-ヒドロキシアダマンタン-1-イル) ]メチル基、(メチル) [ジ(3-シアノアダマンタン-1-イル) ]メチル基、(エチル) [ジ(アダマンタン-1-イル) ]メチル基、(エチル) [ジ(3-ヒドロキシアダマンタン-1-イル) ]メチル基、(エチル) [ジ(3-シアノアダマンタン-1-イル) ]メチル基、(メチル) [ジ(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル) ]メチル基、(メチル) [ジ(5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル) ]メチル基、(メチル) [ジ(6-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル) ]メチル基、(メチル) [ジ(5-シアノビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル) ]メチル基、(メチル) [ジ(6-シアノビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル) ]メチル基、(エチル) [ジ(ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル) ]メチル基、(エチル) [ジ(5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル) ]メチル基、(エチル) [ジ(6-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘپтан-2-イル) ]メチル基、(エチル) [ジ(5-シアノビシクロ[2.2.1]ヘպтан-2-イル) ]メチル基、(エチル) [ジ(6-シアノビシクロ[2.2.1]ヘපтан-2-イル) ]メチル基、

【0035】(メチル) [ジ(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-イル)]メチル基、(メチル) [ジ(9-ヒドロキシテトラシクロ[

6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) ] メチル基、(メチル) [ジ(10-ヒドロキシテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) ] メチル基、(メチル) [ジ(9-シアノテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) ] メチル基、(メチル) [ジ(10-シアノテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) ] メチル基、(エチル) [ジ(テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) ] メチル基、(エチル) [ジ(9-ヒドロキシテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) ] メチル基、(エチル) [ジ(10-ヒドロキシテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) ] メチル基、(エチル) [ジ(9-シアノテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) ] メチル基、(エチル) [ジ(10-シアノテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) ] メチル基、(メチル) [ジ(トリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] デカン-8-イル) ] メチル基、(メチル) [ジ(4-ヒドロキシリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] デカン-8-イル) ] メチル基、(メチル) [ジ(4-シアノトリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] 8-イル) ] メチル基、(エチル) [ジ(トリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] デカン-8-イル) ] メチル基、(エチル) [ジ(4-ヒドロキシリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] デakan-8-イル) ] メチル基、(エチル) [ジ(4-シアノトリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] 8-イル) ] メチル基等のアルキル置換・ジ(有橋式炭化水素基)置換メチル基およびその誘導体等を挙げることができる。

【0036】これらの-C(R<sup>1</sup>)<sub>3</sub>に相当する構造のうち、特に好ましいものとしては、1-メチルシクロペンチル基、1-エチルシクロペンチル基、1-メチルシクロヘキシル基、1-エチルシクロヘキシル基、2-メチルアダマンタン-2-イル基、2-メチル-3-ヒドロキシアダマンタン-2-イル基、2-エチルアダマンタン-2-イル基、2-エチル-3-ヒドロキシアダマンタン-2-イル基、2-メチルビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル基、2-エチルビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル基、4-メチルテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル基、4-エチルテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル基、8-メチルトリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] -8-イル基、8-エチルトリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] -8-イル基、

【0037】(ジメチル)(2-ヒドロキシシクロペンチル)メチル基、(ジメチル)(3-ヒドロキシシクロペンチル)メチル基、(ジメチル)(シクロヘキシル)メチル基、(ジメチル)(3-ヒドロキシシクロヘキシル)メチル基、(ジメチル)(4-ヒドロキシシクロヘ

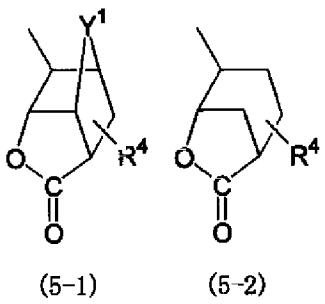
キシル)メチル基、(ジメチル)(3-ヒドロキシシクロヘプチル)メチル基、(ジメチル)(4-ヒドロキシシクロヘプチル)メチル基、(ジメチル)(アダマンタン-1-イル)メチル基、(ジメチル)(3-ヒドロキシアダマンタン-1-イル)メチル基、(ジメチル)(ビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル)メチル基、(ジメチル)(テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル)メチル基、(ジメチル)(トリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] -8-イル)メチル基、  
【0038】(メチル)(ジシクロヘキシル)メチル基、(メチル)[ジ(アダマンタン-1-イル)]メチル基、(メチル)[ジ(ビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル)]メチル基、(メチル)[ジ(テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル)]メチル基、(メチル)[ジ(トリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] -8-イル)]メチル基等を挙げることができる。また、一般式(1-1)におけるnとしては、0または1が好ましい。共重合体(A)において、繰り返し単位(1-1)は、単独でまたは2種以上が存在することができる。

【0039】一般式(1-2)において、R<sup>2</sup>の炭素数1~20の直鎖状もしくは分岐状の1価の有機基としては、例えば、メチル基、エチル基、n-プロピル基、i-プロピル基、n-ブチル基、2-メチルプロピル基、1-メチルプロピル基、t-ブチル基、n-ペンチル基、n-ヘキシル基や、これらの誘導体等を挙げることができる。前記直鎖状もしくは分岐状の1価の誘導体としては、例えば、前記一般式(1-1)におけるR<sup>1</sup>の1価または2価の脂環式炭化水素基の誘導体について例示した置換基を1種以上あるいは1個以上有する基等を挙げることができる。

【0040】また、R<sup>2</sup>の炭素環もしくは複素環の脂環式骨格を有する炭素数4~20の1価の有機基としては、例えば、シクロブタン、シクロペンタン、シクロヘキサン、シクロヘプタン、シクロオクタン等のシクロアルカン類に由来する基；アダマンタン、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン、7, 7-ジメチルビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン、テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン、トリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] デカン等の有橋式炭化水素類に由来する基；(テトラヒドロフラン-2-イル)メチル基、(テトラヒドロビラン-2-イル)メチル基等の複素環式基；前記各基を、例えば、メチル基、エチル基、n-プロピル基、i-プロピル基、n-ブチル基、2-メチルプロピル基、1-メチルプロピル基、t-ブチル基等の炭素数1~4の直鎖状、分岐状もしくは環状のアルキル基の1種以上あるいは1個以上で置換した基；これらの基の誘導体等を挙げることができる。前記脂環式骨格を有する1価の有機基の誘導体としては、例えば、前記一般式(1-

－1)におけるR<sup>1</sup>の1価または2価の脂環式炭化水素基の誘導体について例示した置換基の1種以上あるいは1個以上を有する基等を挙げることができる。

【0041】また、R<sup>2</sup> のラクトン骨格を有する 1 価の



【0043】〔式(5-1)および式(5-2)において、各R<sup>4</sup>は相互に独立に水素原子、炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基、炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキシル基、または炭素数2～5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキシカルボニル基を示し、Y<sup>1</sup>はメチレン基、ジメチルメチレン基、酸素原子または硫黄原子を示す。〕

【0044】式(5-3)において、R<sup>5</sup>は水素原子、炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基、炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキシル基、または炭素数2～5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキシカルボニル基を示す。

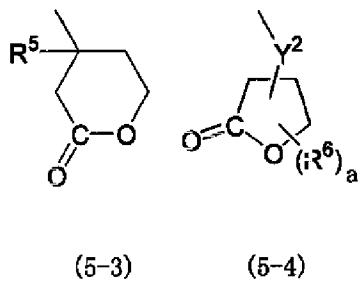
【0045】式(5-4)において、 $R^6$  は水素原子、炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基、炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキシル基、または炭素数2～5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキカルボニル基を示し、複数存在する $R^6$  は相互に同一でも異なってもよく、 $a$  は0～4の整数であり、 $Y^2$  は単結合またはメチレン基を示す。】

【0046】式(5-1)～(5-4)において、R<sup>4</sup>、R<sup>5</sup>およびR<sup>6</sup>の炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基としては、例えば、メチル基、エチル基、n-ブロピル基、i-ブロピル基、n-ブチル基、1-メチルブロピル基、2-メチルブロピル基、t-ブチル基、n-ペンチル基等を挙げることができる。また、R<sup>4</sup>、R<sup>5</sup>およびR<sup>6</sup>の炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキシル基としては、例えば、メトキシ基、エトキシ基、n-ブロポキシ基、i-ブロポキシ基、n-ブトキシ基、1-メチルブロポキシ基、2-メチルブロポキシ基、t-ブトキシ基、n-ペンチルオキシ基等を挙げることができる。また、R<sup>4</sup>、R<sup>5</sup>およびR<sup>6</sup>の炭素数2～5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキカルボニル基としては、例えば、メトキカルボニル基、エトキカルボニル基、n-ブロポキカルボニル基、i-ブロポキカルボニル基、n-ブトキカルボニル基、1-メチルブロポキカルボニル基、2-メチルブロポキカルボニル基、t-ブトキカルボニル基等を挙げることができる。

有機基としては、例えば、下記式(5-1)～(5-4)で表される基等を挙げることができる。

【0042】

【化11】



挙げることができる。

【0047】一般式(1-2)において、R<sup>2</sup>の好ましいものとしては、例えば、エチル基、n-プロピル基、シクロペンチル基、シクロヘキシリ基、アダマンタン-1-イル基、ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル基、7,7-ジメチルビシクロ[2.2.1]ヘプタン-1-イル基、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、トリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル基、(テトラヒドロフラン-2-イル)メチル基、

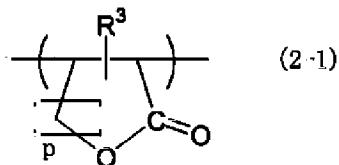
【0048】5-オキソ-4-オキサトリシクロ[4.  
 2. 1. 0<sup>3,7</sup>]ノナン-2-イル基、9-メトキシカルボニル-5-オキソ-4-オキサトリシクロ[4.  
 2. 1. 0<sup>3,7</sup>]ノナン-2-イル基、7-オキソ-6-オキサビシクロ[3. 2. 1]オクタン-4-イル基、2-メトキシカルボニル-7-オキソ-6-オキサビシクロ[3. 2. 1]オクタン-4-イル基、2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル基、4-メチル-2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル基、4-エチル-2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル基、4-n-プロピル-2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル基、5-オキソテトラヒドロフラン-3-イル基、2, 2-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-3-イル基、4, 4-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-3-イル基、2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル基、4, 4-ジメチル-2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル基、5, 5-ジメチル-2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル基、2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル基、(5-オキソテトラヒドロフラン-2-イル)メチル基、(3, 3-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-2-イル)メチル基、(4, 4-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-2-イル)メチル基等を挙げることができる。また、一般式(1-2)におけるmとしては、0または1が好ましい。共重合体(A)において、繰り返し単位(1-2)は、単独でまたは2種以上が存在することができる。

【0049】一般式(2)において、R<sup>3</sup>の炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基としては、例えば、メチル基、エチル基、n-プロピル基、i-プロピル基、n-ブチル基、1-メチルプロピル基、2-メチルプロピル基、t-ブチル基、n-ペンチル基等を挙げることができる。また、R<sup>3</sup>の炭素数1～5の直鎖状もしくは分岐状のアルコキシル基としては、例えば、メトキシ基、エトキシ基、n-ブロボキシ基、i-ブロボキシ基、n-ブロトキシ基、1-メチルブロボキシ基、2-メチルブロボキシ基、t-ブロトキシ基、n-ペンチルオキシ基等を挙げができる。一般式(2)におけるR<sup>3</sup>としては、水素原子、メチル基、エチル基、メトキシ基、エトキシ基等が好ましい。また、一般式(2)におけるpとしては、0または1が好ましい。

【0050】繰り返し単位(2)としては、特に、下記一般式(2-1)で表される繰り返し卖位が好ましい。

【0051】

【化12】



【一般式(2-1)において、R<sup>3</sup>およびpは前記一般式(2)のそれぞれR<sup>3</sup>およびpと同義である。】

共重合体(A)において、繰り返し単位(2)は、単独でまたは2種以上が存在することができる。

【0052】繰り返し単位(1-1)を与える单量体としては、例えば、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-メチルシクロペンチル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-エチルシクロペンチル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-メチルシクロヘキシル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-エチルシクロヘキシル、

【0053】ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2-メチルアダマンタン-2-イル)エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2-メチル-3-ヒドロキシアダマンタン-2-イル)エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2-エチルアダマンタン-2-イル)エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2-エチル-3-ヒドロキシアダマンタン-2-イル)エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2-メチルビシクロ[2.2.1]ヘプタ-2-イル)エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2-エチルビシクロ[2.2.1]ヘプタ-2-イル)エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2-エチルビシクロ[2.2.1]ヘプタ-2-イル)エステル、

口[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(4-メチルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(4-エチルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(8-メチルトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル)エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(8-エチルトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル)エステル、

【0054】ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸(ジメチル)(2-ヒドロキシシクロペンチル)メチル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸(ジメチル)(3-ヒドロキシシクロペンチル)メチル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸(ジメチル)(シクロヘキシル)メチル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸(ジメチル)(3-ヒドロキシシクロヘキシル)メチル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸(ジメチル)(4-ヒドロキシシクロヘキシル)メチル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸(ジメチル)(3-ヒドロキシシアダマンタン-1-イル)メチル]エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(ジメチル)(3-ヒドロキシアダマンタン-1-イル)メチル]エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(ジメチル)(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)メチル]エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(ジメチル)(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル]エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(ジメチル)(トリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル)メチル]エステル、

【0055】ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(ジメチル)(アダマンタン-1-イル)メチル]エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(ジメチル)(3-ヒドロキシアダマンタン-1-イル)メチル]エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(ジメチル)(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)メチル]エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(ジメチル)(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル]エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(ジメチル)(トリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル)メチル]エステル、

【0056】ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸(メチル)(ジシクロヘキシル)メチル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(メチル){ジ(アダマンタン-1-イル)}メチル]エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(メチル){ジ(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)}メチル]エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(メチル){ジ(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)}メチル]

メチル]エステル、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の〔(メチル){ジ(トリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル)}メチル]エステル等のビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸誘導体類；

【0057】テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸1-メチルシクロペンチル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸1-エチルシクロペンチル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸1-メチルシクロヘキシル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸1-エチルシクロヘキシル、

【0058】テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(2-メチルアダマンタン-2-イル)エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(2-メチル-3-ヒドロキシアダマンタン-2-イル)エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(2-エチルアダマンタン-2-イル)エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(2-エチル-3-ヒドロキシアダマンタン-2-イル)エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(2-メチルビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(2-エチルビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(4-メチルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(4-エチルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(8-メチルトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル)エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(8-エチルトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル)エステル、

【0059】テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸(ジメチル)(2-ヒドロキシシクロペンチル)メチル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸(ジメチル)(3-ヒドロキシシクロペンチル)メチル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸(ジメチ

ル)(シクロヘキシル)メチル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸(ジメチル)(3-ヒドロキシシクロヘキシル)メチル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸(ジメチル)(4-ヒドロキシシクロヘキシル)メチル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸(ジメチル)(3-ヒドロキシシクロヘプチル)メチル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸(ジメチル)(4-ヒドロキシシクロヘプチル)メチル、

【0060】テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の〔(ジメチル)(アダマンタン-1-イル)メチル]エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の〔(ジメチル)(3-ヒドロキシアダマンタン-1-イル)メチル]エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の〔(ジメチル)(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)メチル]エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の〔(ジメチル)(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)メチル]エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の〔(ジメチル)(トリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル)メチル]エステル、

【0061】テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸(メチル)(ジシクロヘキシル)メチル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の〔(メチル){ジ(アダマンタン-1-イル)}メチル]エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の〔(メチル){ジ(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)}メチル]エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の〔(メチル){ジ(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)}メチル]エステル、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の〔(メチル){ジ(トリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル)}メチル]エステル等のテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸誘導体類等を挙げることができる。

【0062】また、繰り返し単位(1-2)を与える単量体としては、例えば、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-酢酸、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-プロピオン酸、ビシクロ[2.

2. 1] ヘプト-2-エン-5-カルボン酸(テトラヒドロフラン-2-イル)メチル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸(テトラヒドロピラン-2-イル)メチル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(3-ヒドロキシアダマンタン-1-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(5-ヒドロキシビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(9-ヒドロキシテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(10-ヒドロキシテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-イル)エステル、  
【0063】ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸エチル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸n-プロピル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸シクロロペンチル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸シクロロヘキシル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(アダマンタン-1-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(ビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(7, 7-ジメチルビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-1-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(トリシクロ[5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>]デカン-8-イル)エステル、  
【0064】ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(5-オキソ-4-オキサトリシクロ[4. 2. 1. 0<sup>3,7</sup>]ノナン-2-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(9-メトキシカルボニル-5-オキソ-4-オキサトリシクロ[4. 2. 1. 0<sup>3,7</sup>]ノナン-2-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(7-オキソ-6-オキサビシクロ[3. 2. 1]オクタン-4-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2-メトキシカルボニル-7-オキソ-6-オキサビシクロ[3. 2. 1]オクタン-4-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エ

ン-5-カルボン酸の(4-メチル-2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(4-エチル-2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(4-n-プロピル-2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(5-オキソテトラヒドロフラン-3-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2, 2-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-3-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(4, 4-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-3-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(4, 4-ジメチル-2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(5, 5-ジメチル-2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の(2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル)エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(5-オキソテトラヒドロフラン-2-イル)メチル]エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(3, 3-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-2-イル)メチル]エステル、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸の[(4, 4-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-2-イル)メチル]エステル等のビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸誘導体類；  
【0065】テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸、テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-酢酸、テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-プロピオン酸、テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸(テトラヒドロフラン-2-イル)メチル、テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸(テトラヒドロピラン-2-イル)メチル、テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(3-ヒドロキシアダマンタン-1-イル)エステル、テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(5-ヒドロキシビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル)エステル、テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(6-ヒドロキシビシクロ[2.

2. 1] ヘプタン-2-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(9-ヒドロキシテトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(10-ヒドロキシテトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) エステル、

【0066】テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸エチル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸n-ブロピル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸シクロペンチル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸シクロヘキシル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(アダマンタン-1-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(ビシクロ[ 2. 2. 1] ヘプタン-2-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(7, 7-ジメチルビシクロ[ 2. 2. 1] ヘプタン-1-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(トリシクロ[ 5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup>] デカン-8-イル) エステル、

【0067】テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(5-オキソ-4-オキサトリシクロ[ 4. 2. 1. 0<sup>3,7</sup>] ノナン-2-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(9-メトキシカルボニル-5-オキソ-4-オキサトリシクロ[ 4. 2. 1. 0<sup>3,7</sup>] ノナン-2-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(7-オキソ-6-オキサビシクロ[ 3. 2. 1] オクタン-4-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(2-メトキシカルボニル-7-オキソ-6-オキサビシクロ[ 3. 2. 1] オクタン-4-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(4-メチル-2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ド

<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(4-エチル-2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(4-n-ブロピル-2-オキソテトラヒドロピラン-4-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(5-オキソテトラヒドロフラン-3-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(2, 2-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-3-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(4, 4-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-3-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(4, 4-ジメチル-2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(5, 5-ジメチル-2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の(2-オキソテトラヒドロフラン-3-イル) エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の[(5-オキソテトラヒドロフラン-2-イル) メチル] エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の[(3, 3-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-2-イル) メチル] エステル、テトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸の[(4, 4-ジメチル-5-オキソテトラヒドロフラン-2-イル) メチル] エステル等のテトラシクロ[ 6. 2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>] ドデカ-4-エン-9-カルボン酸誘導体類等を挙げることができる。

【0068】さらに、繰り返し単位(2)を与える单量体としては、例えば、2(5H)-フラノン、5-メチル-2(5H)-フラノン、5-エチル-2(5H)-フラノン、5-メトキシ-2(5H)-フラノン、5-エトキシ-2(5H)-フラノン、5, 6-ジヒドロ-2H-ピラン-2-オン、3-メチル-2(5H)-フラノン等を挙げることができる。

【0069】また、共重合体(A)は、場合により、繰り返し単位(1-1)、繰り返し単位(1-2)および繰り返し単位(2)以外の繰り返し単位(以下、「他の繰り返し単位」という)を1種以上有することができる。他の繰り返し単位を与える单量体としては、例えば、5-ヒドロキシビシクロ[ 2. 2. 1] ヘプト-2-エン、5-ヒドロキシメチルビシクロ[ 2. 2. 1]

ヘプト-2-エン、5-(2-ヒドロキシエチル)ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-(3-ヒドロキシプロピル)ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-[(フルオロ)(ヒドロキシ)メチル]ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-[(ジフルオロ)(ヒドロキシ)メチル]ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-(1,2-ジフルオロ-2-ヒドロキシエチル)ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-(1,1,2,2-テトラフルオロ-2-ヒドロキシエチル)ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-(2-トリフルオロメチル-2-ヒドロキシエチル)ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-[(2-ジフルオロメチル)-2-ヒドロキシエチル]ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、【0070】ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-メチルビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-エチルビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-n-プロビルビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-n-ブチルビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-n-ヘキシリビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-n-オクチルビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-シアノビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-シアノメチルビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-(2-シアノエチル)ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン、5-(3-シアノプロピル)ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン等のビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エンまたはその誘導体類；  
【0071】9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-ヒドロキシメチルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-[(2-ヒドロキシエチル)テトラシクロ4-エン、9-(3-ヒドロキシプロピル)テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-[(フルオロ)(ヒドロキシ)メチル]テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-[(ジフルオロ)(ヒドロキシ)メチル]テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-(1,2-ジフルオロ-2-ヒドロキシエチル)テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-(1,1,2,2-テトラフルオロ-2-ヒドロキシエチル)テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-(2-トリフルオロメチル-2-ヒドロキシエチル)テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-[(2-ジフルオロメチル)-2-ヒドロキシエチル]テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、  
【0072】テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-メチルテトラシクロ[

6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-エチルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-n-プロビルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-n-ブチルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-n-ヘキシリテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-n-オクチルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-シアノテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-シアノメチルテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-(2-シアノエチル)テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン、9-(3-シアノプロピル)テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エン等のテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-エンまたはその誘導体類等を挙げができる。

【0073】共重合体(A)において、繰り返し単位(1-1)と繰り返し単位(1-2)との合計含有率は、全繰り返し単位に対して30モル%を超えることが必要であり、より具体的には、好ましくは31~95モル%、さらに好ましくは31~90モル%、特に好ましくは40~80モル%である。この場合、前記合計含有率が30モル%以下であると、レジストとしての溶剤への溶解性、ドライエッキング耐性、基板への密着性、解像度等のバランスが低下する傾向がある。但し、前記合計含有率が95モル%を超えると、レジストとしての基板への密着性が低下する傾向がある。

【0074】また、繰り返し単位(1-1)の含有率は、全繰り返し単位に対して、通常、60モル%未満、好ましくは50モル%未満、さらに好ましくは40モル%未満である。また、繰り返し単位(2)の含有率は、全繰り返し単位に対して、通常、5~50モル%、好ましくは10~50モル%、さらに好ましくは20~50モル%である。この場合、繰り返し単位(2)の含有率が5モル%未満では、レジストとしての基板への密着性や現像性が低下する傾向があり、一方50モル%を超えると、レジストとしてのドライエッキング耐性が低下し、また解像度も低下する傾向がある。さらに、他の繰り返し単位の含有率は、全繰り返し単位に対して、通常、40モル%以下、好ましくは30モル%以下である。

【0075】共重合体(A)のゲルパーミエーションクロマトグラフィー(GPC)によるポリスチレン換算重量平均分子量(以下、「Mw」という。)は、1,000~300,000であり、好ましくは2,000~200,000、さらに好ましくは3,000~100,000である。この場合、共重合体(A)のMwが1,000未満では、レジストとしての耐熱性が低下する傾向があり、一方300,000を超えると、レジストと

しての現像性が低下する傾向がある。また、共重合体(A)のMwとゲルバー・ミエーションクロマトグラフィー(GPC)によるポリスチレン換算数平均分子量(以下、「Mn」という。)との比(Mw/Mn)は、通常、1~5、好ましくは1~3である。共重合体(A)は、特に、化学増幅型レジストとして有用な感放射線性樹脂組成物における樹脂成分として極めて好適に使用することができるほか、成形材料、樹脂配合成分、塗料、接着剤、光学材料等にも使用することができる。

#### 【0076】共重合体(A)の製造方法

共重合体(A)は、前記一般式(i-1)で表される化合物および前記一般式(i-2)で表される化合物の群から選ばれる少なくとも1種と、前記一般式(ii)で表される化合物とを、場合により、他の繰り返し単位を与える单量体と共に、通常、有機溶媒中で、過酸化物、好ましくは有機過酸化物を重合開始剤として重合することにより製造することができる。

【0077】前記有機過酸化物としては、例えば、シクロヘキサンパーオキサイド、3,3,5-トリメチルシクロヘキサンパーオキサイド等のケトンパーオキサイド類；1,1-ビス(テープチルパーオキシ)シクロヘキサン、n-ブチル-4,4-ビス(テープチルパーオキシ)バレート等のパーオキシケタール類；クメンハイドロパーオキサイド、ジイソプロビルベンゼンパーオキサイド、2,5-ジメチルヘキサン-2,5-ジハイドロパーオキサイド、テープチルクミルパーオキサイド、 $\alpha$ , $\alpha'$ -ビス(テープチルパーオキシ-m-イソプロビル)ベンゼン、2,5-ジメチル-2,5-ジ(テープチルパーオキシ)ヘキシン-3、テープチルクミルパーオキサイド、ジテープチルパーオキサイド等のジアルキルパーオキサイド類；デカノイルパーオキサイド、ラウロイルパーオキサイド、ベンゾイルパーオキサイド、2,4-ジクロロベンゾイルパーオキサイド等のジアシルパーオキサイド類；ビス(テープチルシクロヘキシル)パーオキシジカーボネート等のパーオキシカーボネート類；

【0078】テープチルパーオキシベンゾエート、テ-ヘキシルパーオキシベンゾエート、2,5-ジメチル-2,5-ジ(ベンゾイルパーオキシ)ヘキサン、テープチルパーオキシビバレート、テ-ヘキシルパーオキシビバレート、1,1,3,3-テトラメチルブチルパーオキシ-2-エチルヘキサノエート、1-シクロヘキシル-1-メチルエチルパーオキシ-2-エチルヘキサノエート、テープチルパーオキシ-2-エチルヘキサノエート、テ-ヘキシルパーオキシ-2-エチルヘキサノエート、テ-ブチルパーオキシマレイン酸、テープチルパーオキシ-3,5,5-トリメチルヘキサノエート、テープチルパーオキシラウレート、テープチルパーオキシイソプロビルモノカーボネート、テ-ヘキシルパーオキシイソプロビルモノ

カーボネート、テープチルパーオキシ-2-エチルヘキシリモノカーボネート、テープチルパーオキシアセテート、テープチルパーオキシm-トルオイルベンゾエート、テープチルパーオキシベンゾエート、ビス(テープチルパーオキシ)イソフタレート等のパーオキシエステル類等を挙げることができる。

【0079】これらの有機過酸化物のうち、n-ブチル-4,4-ビス(テープチルパーオキシ)バレート、ジテープチルパーオキサイド、テープチルパーオキシビバレート、テ-ヘキシルパーオキシビバレート、テ-ブチルパーオキシイソブチレート、テ-ブチルパーオキシイソプロビルモノカーボネート、テープチルパーオキシアセテート等が好ましい。前記有機過酸化物は、単独でまたは2種以上を混合して使用することができる。有機過酸化物の使用量は、全单量体100重量部に対して、通常、1~60重量部、好ましくは1~50重量部である。また、前記有機過酸化物は、1種以上の還元剤を併用して、レドックス系として使用することもできる。

【0080】重合に使用される前記有機溶媒としては、例えば、n-ペンタン、n-ヘキサン、n-ヘプタン、n-オクタン、n-ノナン、n-デカン等のアルカン類；シクロヘキサン、シクロヘプタン、シクロオクタン、デカリニン、ノルボルナン等の環状炭化水素類；ベンゼン、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、クメン等の芳香族炭化水素類；クロロブタン類、ブロモヘキサン類、ジクロロエタン類、フルオロクロロエタン類、ヘキサメチレンジブロミド、クロロベンゼン等のハログン化炭化水素類；酢酸エチル、酢酸n-ブチル、酢酸1-ブチル、ブロピオン酸メチル、プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート等の飽和カルボン酸エステル類；テープチロラクトン等のアルキルラクトン類；テトラヒドロフラン、ジメトキシエタン類、ジエトキシエタン類等のエーテル類；2-ブタノン、2-ヘプタノン、メチルイソブチルケトン、シクロヘキサン等のケトン類；2-ブロパノール、プロピレングリコールモノメチルエーテル等のアルコール類等を挙げることができる。

【0081】これらの有機溶媒のうち、酢酸n-ブチル、酢酸1-ブチル、プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート、テープチロラクトン、2-ブタノン、2-ヘプタノン、メチルイソブチルケトン、2-ブロパノールおよびプロピレングリコールモノメチルエーテルの群から選ばれる少なくとも1種が、单量体および共重合体(A)に対する溶解性に優れ、重合反応を阻害しない点で好ましい。前記有機溶媒は、単独でまたは2種以上を混合して使用することができる。

【0082】有機溶媒の使用量は、单量体溶液全体に対して、通常、50~90重量%、好ましくは50~80重量%である。この場合、单量体の溶液濃度が50重量%未満では、重合速度が低下する傾向であり、一方90

重量%を超えると、单量体溶液の流動性が低下するだけでなく、重合反応の暴走を招くおそれがある。また、前記重合における反応温度は、通常、40～180℃、好ましくは80～150℃であり、反応時間は、通常、1～48時間、好ましくは1～24時間である。

【0083】共重合体(A)は、ハロゲン、金属等の不純物が少ない程好ましいのは当然であるが、残留モノマーやオリゴマー成分についても規定値以下、例えば高速液体クロマトグラフィー(HPLC)で測定した値が0.1重量%以下であることが好ましく、それにより、レジストとしての感度、解像度、プロセス安定性、パターン形状等をさらに改善することができるだけでなく、レジストパターンの形成に使用される組成物溶液中の異物量の変動や感度等の経時変化が少なく、安定したレジスト性能を示す感放射線性樹脂組成物を提供することができる。共重合体(A)の精製法としては、例えば、次の方針を挙げることができる。まず、金属等の不純物を除去する方法としては、ゼータ電位フィルターを用いて樹脂溶液中の金属を吸着させる方法や、亜酸やスルホン酸等の酸性水溶液で樹脂溶液を洗浄することにより金属をキレートとして除去する方法等を挙げることができる。また、残留モノマーやオリゴマー成分を規定値以下に下げる方法としては、水洗：適切な溶媒を選択あるいは組み合わせて残留モノマーやオリゴマー成分を除去する液々抽出、適切な溶媒を選択あるいは組み合わせて特定分子量以下の低分子量成分のみを抽出除去する限外ろ過等の液相精製法；樹脂溶液を貧溶媒中へ滴下して樹脂を凝固させて残留モノマー等を除去する再沈澱、ろ別した樹脂を貧溶媒で洗浄する方法等の固相精製法を挙げることができ、またこれらの方法を組み合わせることもできる。前記液相精製法に使用される溶媒および前記固相精製法に使用される貧溶媒は、精製される樹脂に応じて適宜選定される。

#### 【0084】感放射線性樹脂組成物

本発明の感放射線性樹脂組成物は、それ自体アルカリ不溶性またはアルカリ難溶性であって、酸の作用によりアルカリ可溶性となる共重合体(A)、並びに(B)感放射線性酸発生剤(以下、「酸発生剤(B)」)という。)を含有するものである。ここでいう「アルカリ不溶性またはアルカリ難溶性」とは、共重合体(A)を含有する感放射線性樹脂組成物から形成されたレジスト被膜からレジストパターンを形成する際に採用されるアルカリ現像条件下で、当該レジスト被膜の代わりに共重合体(A)のみを用いたレジスト被膜を現像した場合に、当該被膜の初期膜厚の50%以上が現像後に残存する性質を意味する。本発明の感放射線性樹脂組成物において、共重合体(A)は、単独でまたは2種以上を混合して使用することができる。

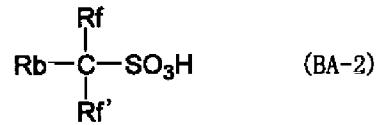
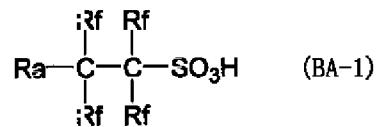
#### 【0085】-酸発生剤(B)-

酸発生剤(B)は、可視光線、紫外線、遠紫外線、電子

線、X線等の放射線による露光により酸を発生する成分であり、露光により発生した酸の作用によって、共重合体(A)中に存在する酸解離性基を解離させ、その結果レジスト被膜の露光部がアルカリ現像液に易溶性となり、ポジ型のレジストパターンを形成する作用を有するものである。酸発生剤(B)から発生する酸としては、下記式(BA-1)～(BA-5)で表されるものが好ましい。

#### 【0086】

#### 【化13】



【0087】【式(BA-1)において、各Rfは相互に独立にフッ素原子またはトリフルオロメチル基を示し、Raは水素原子、フッ素原子、炭素数1～20の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基、炭素数1～20の直鎖状もしくは分岐状のフッ素化アルキル基、炭素数3～20の環状の1価の炭化水素基または炭素数3～20の環状の1価のフッ素化炭化水素基を示し、該環状の一価の炭化水素基および該環状の一価のフッ素化炭化水素基は置換されていてよい。】

【0088】式(BA-2)において、Rfはフッ素原子またはトリフルオロメチル基を示し、Rf'は水素原子、フッ素原子、メチル基またはトリフルオロメチル基を示し、Rbは水素原子、炭素数1～20の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基、炭素数3～20の環状の1価の炭化水素基または炭素数3～20の環状の1価のフッ素化炭化水素基を示し、該環状の一価の炭化水素基および該環状の一価のフッ素化炭化水素基は置換されていてよい。

【0089】式(BA-3)において、Rsは炭素数1～20の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基または炭素数3～20の環状の1価の炭化水素基を示し、該環状の1価の炭化水素基は置換されていてよい。

【0090】式(BA-4)において、Rcは炭素数1～20の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基、炭素数1～20の直鎖状もしくは分岐状のフッ素化アルキル基、炭素数3～20の環状の1価の炭化水素基または炭素数3～20の環状の1価のフッ素化炭化水素基を示し、該環状の一価の炭化水素基および該環状の一価のフッ素化炭化水素基は置換されていてよい。

水素基は置換されていてもよい。

【0091】式(BA-5)において、ReはRa-SO<sub>2</sub>-基またはRa-CO-基を示し、Raは式(B-1)におけるRaと同義である。但し、酸発生剤(B)から発生する酸が式(BA-1)で表される酸と式(BA-5)で表される酸との混合物を含むとき、式(BA-1)で表される酸のRaと式(BA-5)で表される酸のRaとは同一でも異なってもよい。】

【0092】式(BA-1)～(BA-5)において、Ra、Rb、Rs、RcおよびReの炭素数1～20の直鎖状もしくは分岐状のアルキル基としては、例えば、メチル基、エチル基、n-ブロピル基、i-ブロピル基、n-ブチル基、2-メチルブロピル基、1-メチルブロピル基、t-ブチル基、n-ペンチル基、n-ヘキシル基、n-ヘプチル基、n-オクチル基等を挙げることができる。また、Ra、RcおよびReの炭素数1～20の直鎖状もしくは分岐状のフッ素化アルキル基としては、例えば、トリフルオロメチル基、ペンタフルオロエチル基、ヘptaフルオロ-n-ブロピル基、ヘptaフルオロ-i-ブロピル基、ノナフルオロ-n-ブチル基、ノナフルオロ-2-メチルブロピル基、ノナフルオロ-1-メチルブロピル基、ノナフルオロ-t-ブチル基、パーフルオロ-n-ペンチル基、パーフルオロ-n-ヘキシル基、パーフルオロ-n-ヘプチル基、パーフルオロ-n-オクチル基等を挙げることができる。

【0093】また、Ra、Rb、Rs、RcおよびReの炭素数3～20の環状の1価の炭化水素基としては、例えば、フェニル基、2-ナフチル基、2-ナフチル基、シクロアルキル基、アダマンタン-1-イル基、ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル基、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、10-カソニアニル基等を挙げることができる。

【0094】また、Ra、Rb、RcおよびReの炭素数3～20の環状の1価のフッ素化炭化水素基としては、例えば、フェニル基、2-ナフチル基、2-ナフチル基、シクロアルキル基、アダマンタン-1-イル基、ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル基、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基または10-カソニアニル基を1個以上のフッ素原子で置換した基等を挙げることができる。

【0095】前記式(BA-1)で表される酸としては、例えば、トリフルオロメタンスルホン酸、ペンタフルオロエタンスルホン酸、1,1,2,2-テトラフルオロ-n-ブロパンスルホン酸、ヘptaフルオロ-n-ブロパンスルホン酸、1,1,2,2-テトラフルオロ-n-ブタ\_nsルホン酸、ノナフルオロ-n-ブタ\_nsルホン酸、1,1,2,2-テトラフルオロ-n-オクタンスルホン酸、パーフルオロ-n-オクタンスルホン酸等の直鎖或いは分岐状のフッ素化アルキルスルホン酸類；

【0096】1,1,2,2-テトラフルオロエタンス

ルホン酸、1-トリフルオロメチル-1,2,2-トリフルオロエタンスルホン酸、2-トリフルオロメチル-1,1,2-トリフルオロエタンスルホン酸、1,2-ジ(トリフルオロメチル)-1,2-ジフルオロエタンスルホン酸、1,1-ジ(トリフルオロメチル)-2,2-ジフルオロエタンスルホン酸または2,2-ジ(トリフルオロメチル)-1,1-ジフルオロエタンスルホン酸の各2-位に位置する水素原子を、シクロブチル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基、フェニル基、4-トリフルオロメチルフェニル基、2,3-ジフルオロフェニル基、2,4-ジフルオロフェニル基、2,5-ジフルオロフェニル基、2,6-ジフルオロフェニル基、3,4-ジフルオロフェニル基、3,5-ジフルオロフェニル基、3,6-ジフルオロフェニル基、2,3,4,5,6-ペンタフルオロフェニル基、ナフタレン-1-イル基、ナフタレン-2-イル基、アダマンタン-1-イル基、アダマンタン-2-イル基、3-ヒドロキシアダマンタン-1-イル基、3-ヒドロキシアダマンタン-2-イル基、ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル基、5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル基、6-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル基、7,7-ジメチルビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル基、テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基、9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基または10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル基で置換した酸等を挙げることができる。

【0097】また、式(BA-2)で表される酸としては、例えば、1-フルオロエタンスルホン酸、1-フルオロ-n-ブロパンスルホン酸、1-フルオロ-n-ブタ\_nsスルホン酸、1-ジフルオロエタンスルホン酸、1-ジフルオロ-n-ブロパンスルホン酸、1-ジフルオロ-n-オクタンスルホン酸、1-トリフルオロメチル-n-ブロパンスルホン酸、1-トリフルオロメチル-n-オクタンスルホン酸、1-ジ(トリフルオロメチル)エタンスルホン酸、1-ジ(トリフルオロメチル)-n-ブロパンスルホン酸、1-ビス(トリフルオロメチル)-n-ブタ\_nsルホン酸、1-ジ(トリフルオロメチル)-n-オクタンスルホン酸等の直鎖或いは分岐状のフッ素化アルキルスルホン酸類；

【0098】モノフルオロメタンスルホン酸、ジフルオロメタンスルホン酸、1-フルオロエタンスルホン酸、1,1-ジフルオロエタンスルホン酸、(トリフルオロメチル)メタンスルホン酸、1-(トリフルオロメチル)エタンスルホン酸、ジ(トリフルオロメチル)メタ

ンスルホン酸または1, 1-ジ(トリフルオロメチル)エタンスルホン酸の各1-位に位置する水素原子または各2-位に位置する水素原子を、シクロブチル基、シクロペニチル基、シクロヘキシル基、フェニル基、4-トリフルオロメチルフェニル基、2, 3-ジフルオロフェニル基、2, 4-ジフルオロフェニル基、2, 5-ジフルオロフェニル基、2, 6-ジフルオロフェニル基、3, 4-ジフルオロフェニル基、3, 5-ジフルオロフェニル基、3, 6-ジフルオロフェニル基、2, 3, 4, 5, 6-ペンタフルオロフェニル基、ナフタレン-1-イル基、ナフタレン-2-イル基、アダマンタン-1-イル基、アダマンタン-2-イル基、3-ヒドロキシアダマンタン-1-イル基、3-ヒドロキシアダマンタン-2-イル基、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル基、5-ヒドロキシビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル基、6-ヒドロキシビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル基、7, 7-ジメチルビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル基、テトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3, 6</sup>. 0<sup>2, 7</sup>]ドデカン-4-イル基、9-ヒドロキシテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3, 6</sup>. 0<sup>2, 7</sup>]ドデカン-4-イル基または10-ヒドロキシテトラシクロ[6. 2. 1. 1<sup>3, 6</sup>. 0<sup>2, 7</sup>]ドデカン-4-イル基で置換した酸等を挙げることができる。

【0099】また、式(BA-3)で表される酸としては、例えば、メタンスルホン酸、エタンスルホン酸、n-ブロパンスルホン酸、n-ブタンスルホン酸、2-メチルブロパンスルホン酸、1-メチルブロパンスルホン酸、t-ブタンスルホン酸、n-ペンタンスルホン酸、n-ヘキサンスルホン酸、n-オクタンスルホン酸、シクロペンタンスルホン酸、シクロヘキサンスルホン酸等の直鎖状、分岐状もしくは環状のアルキルスルホン酸類；ベンゼンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸、ベンジルスルホン酸、 $\alpha$ -ナフタレンスルホン酸、 $\beta$ -ナフタレンスルホン酸等の芳香族スルホン酸類；10-カントニースルホン酸等を挙げることができる。

【0100】また、式(BA-4)で表される酸としては、例えば、酢酸、プロピオン酸、酪酸、イソ酪酸、吉草酸、イソ吉草酸、カプロン酸、安息香酸、サリチル酸、フタル酸、テレフタル酸、 $\alpha$ -ナフタレンカルボン酸、 $\beta$ -ナフタレンカルボン酸、シクロブタンカルボン酸、シクロペニタンカルボン酸、シクロヘキサンカルボン酸、アダマンタン-1-カルボン酸、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-カルボン酸、アダマンタン-1-酢酸、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-酢酸、リトコール酸、デオキシコール酸、ケノデオキシコール酸、コール酸等のモノカルボン酸類；シクロブタン-1, 1-ジカルボン酸、シクロブタン-1, 2-ジカルボン酸、シクロペニタン-1, 1-ジカルボン酸、シクロヘキサン-1, 2-ジカルボン酸、シクロペニタン-1, 2-ジカルボン酸等を挙げることができる。

1, 3-ジカルボン酸、シクロヘキサン-1, 1-ジカルボン酸、シクロヘキサン-1, 2-ジカルボン酸、シクロヘキサン-1, 3-ジカルボン酸、シクロヘキサン-1, 4-ジカルボン酸、アダマンタン-1, 3-ジカルボン酸、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2, 3-ジカルボン酸、アダマンタン-1, 3-ジ酢酸、ビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2, 3-ジ酢酸等のジカルボン酸類等を挙げができる。

【0101】さらに、式(BA-5)で表される酸としては、例えば、N, N-ビス(トリフルオロメタンスルホニル)イミド酸、N, N-ビス(ペンタフルオロエタンスルホニル)イミド酸、N, N-ビス(1, 1, 2, 2-テトラフルオロ-n-ブロパンスルホニル)イミド酸、N, N-ビス(ヘptaフルオロ-n-ブロパンスルホニル)イミド酸、N, N-ビス(1, 1, 2, 2-テトラフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミド酸、N, N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミド酸、N, N-ビス(1, 1, 2, 2-テトラフルオロ-n-オクタンスルホニル)イミド酸、N, N-ビス(パーフルオロ-n-オクタンスルホニル)イミド酸、N-トリフルオロメタンスルホニル・N-ペンタフルオロエタンスルホニルイミド酸、N-トリフルオロメタンスルホニル・N-ヘptaフルオロ-n-ブロパンスルホニルイミド酸、N-トリフルオロメタンスルホニル・N-ノナフルオロ-n-ブタンスルホニルイミド酸、N-ペンタフルオロエタンスルホニル・N-ヘptaフルオロ-n-ブタンスルホニルイミド酸等を挙げができる。

【0102】前記式(BA-1)～(BA-5)で表される酸を発生する化合物としては、例えば、オニウム塩化合物、スルホンイミド化合物、スルホン化合物、スルホン酸エステル化合物、ジスルホニルジアゾメタン化合物、ジスルホニルメタン化合物、オキシムスルホネート化合物、ヒドラジンスルホネート化合物等を挙げができる。

【0103】前記オニウム塩化合物としては、ヨードニウム塩、スルホニウム塩(テトラヒドロチオフェニウム塩を含む。)、ホスホニウム塩、ジアゾニウム塩、ピリジニウム塩等を挙げができる。好ましいオニウム塩化合物としては、例えば、ジフェニルヨードニウム塩、ジ(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウム塩、ジ(p-トルイル)ヨードニウム塩、ジ(3, 4-ジメチルフェニル)ヨードニウム塩、4-ニトロフェニル・フェニルヨードニウム塩、ジ(3-ニトロフェニル)ヨードニウム塩、ジ(4-メトキシフェニル・フェニルヨードニウム塩、ジ(4-クロロフェニル)ヨードニウム塩、ジ(4-トリフルオロメチルフェニル)ヨードニウム塩、

ビフェニレンヨードニウム塩、ジ(ナフタレン-2-イル)ヨードニウム塩、2-クロロビフェニレンヨードニウム塩等のヨードニウム塩；トリフェニルスルホニウム塩、4-t-ブチルフェニル・ジフェニルスルホニウム塩、4-t-ブトキシフェニル・ジフェニルスルホニウム塩、4-ヒドロキシフェニル・ジフェニルスルホニウム塩、トリ(4-メトキシフェニル)スルホニウム塩、ジ(4-メトキシフェニル)・p-トルイルスルホニウム塩、フェニル・ビフェニレンスルホニウム塩、4-フェニルチオフェニル・ジフェニルスルホニウム塩、4,4'-ビス(ジフェニルスルホニオフェニル)スルフィド塩等のアリールスルホニウム塩；

【0104】ジシクロヘキシル・メチルスルホニウム塩、ジメチル・シクロヘキシルスルホニウム塩、トリシクロヘキシルスルホニウム塩等のトリ(シクロ)アルキルスルホニウム塩；シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシル・メチルスルホニウム塩、ジシクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホニウム塩、2-オキソシクロヘキシルジメチルスルホニウム塩、ビシクロ

[2.2.1]ヘプタン-2-イル・メチル・2-オキソシクロヘキシルスルホニウム塩、ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホニウム塩、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウム塩、1-[2-(ナフタレン-2-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(2-オキソ-n-ブチル)テトラヒドロチオフェニウム塩等の2-オキソスルホニウム塩；ナフタレン-1-イル・ジメチルスルホニウム塩、ナフタレン-1-イル・ジエチルスルホニウム塩、4-シアノナフタレン-1-イル・ジメチルスルホニウム塩、4-シアノナフタレン-1-イル・ジエチルスルホニウム塩、4-ニトロナフタレン-1-イル・ジメチルスルホニウム塩、4-ニトロナフタレン-1-イル・ジエチルスルホニウム塩、4-メチルナフタレン-1-イル・ジメチルスルホニウム塩、4-メチルナフタレン-1-イル・ジエチルスルホニウム塩、4-ヒドロキシノナフタレン-1-イル・ジメチルスルホニウム塩、4-ヒドロキシナフタレン-1-イル・ジエチルスルホニウム塩等のナフタレン-1-イル・ジアルキルスルホニウム塩；

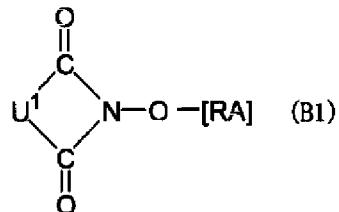
【0105】1-(4-ヒドロキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-メトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-エトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-メトキシメトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-エトキシメトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-[4-(1-メトキシエトキシ)ナフタレン-

1-イル]テトラヒドロチオフェニウム塩、1-[4-(2-メトキシエトキシ)ナフタレン-1-イル]テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-メトキシカルボニルオキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-エトキシカルボニルオキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-n-ブロポキシカルボニルオキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-i-ブロポキシカルボニルオキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-n-ブトキシカルボニルオキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-メトキシカルボニルオキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-エトキシカルボニルオキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-n-ブトキシカルボニルオキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-テトラヒドロフラニルオキシ)ナフタレン-1-イル]テトラヒドロチオフェニウム塩、1-[4-(2-テトラヒドロピラニルオキシ)ナフタレン-1-イル]テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(4-ベンジルオキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム塩、4-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)-4-チオニアトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン塩、(4-エトキシナフタレン-1-イル)-4-チオニアトリシクロ[5.2.1.0<sup>2,6</sup>]デカン塩、1-[4-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)オキシナフタレン-1-イル]テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(3,5-ジメチル-4-エトキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム塩、1-(3,5-ジメチル-4-n-ブトキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム塩等のアリールチオフェニウム塩等を挙げることができる。

【0106】前記スルホンイミド化合物としては、例えば、下記一般式(B1)で表される化合物を挙げることができる。

【0107】

【化14】



〔一般式(B1)において、[RA]は前記式(BA-1)～(BA-4)で表される何れかの酸の残基を示し、それが解離したとき式(BA-1)～(BA-4)で表される酸を生成する基であり、U<sup>1</sup>は2価の有機基を示す。〕

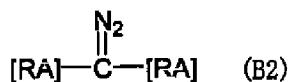
【0108】一般式(B1)で表される化合物は、一般式(B1)中の[RA]基を水素原子で置換した化合物(以下、「母核化合物(B1)」といふ。)と前記式(BA-1)～(BA-4)で表される酸の残基とがスルホニル

結合あるいはカルボニル結合を介して結合した構造を有する化合物である。母核化合物（B1）としては、例えば、N-ヒドロキシスクシンイミド、N-ヒドロキシジフェニルマレイミド、N-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプト-5-エン-2,3-ジカルボキシイミド、N-ヒドロキシ-7-オキサビシクロ[2.2.1]ヘプト-5-エン-2,3-ジカルボキシイミド、N-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-5,6-オキシ-2,3-ジカルボキシイミド、N-ヒドロキシナフチルイミド、N-ヒドロキシフルタリイミド等を挙げることができる。

【0109】前記スルホン化合物としては、例えば、 $\beta$ -ケトスルホン、 $\beta$ -スルホニルスルホンや、これらの $\alpha$ -ジアゾ化合物等を挙げることができる。スルホン酸エステル化合物としては、例えば、アルキルスルホン酸エステル、ハロアルキルスルホン酸エステル、アリールスルホン酸エステル、イミノスルホネート等を挙げることができる。前記ジスルホニルジアゾメタン化合物としては、例えば、下記一般式（B2）で表される化合物を挙げることができる。

【0110】

【化15】

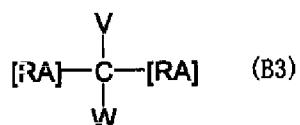


【一般式（B2）において、各〔RA〕は相互に独立に前記一般式（B1）における〔RA〕と同義である。】

【0111】前記ジスルホニルメタン化合物としては、例えば、下記一般式（B3）で表される化合物を挙げることができる。

【0112】

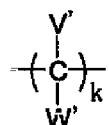
【化16】



【一般式（B3）において、各〔RA〕は相互に独立に前記一般式（B1）における〔RA〕と同義であり、VおよびWは少なくとも一方がアリール基であるか、あるいはVとWが相互に連結して少なくとも1個の不飽和結合を有する単環構造または多環構造を形成しているか、あるいはVとWが相互に連結して下記式

【0113】

【化17】



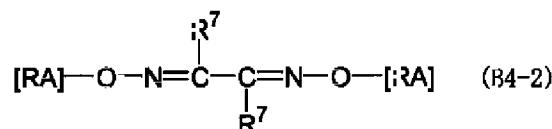
（但し、V'およびW'は相互に同一でも異なってもよく、かつ複数存在するV'およびW'は相互に同一でも

異なってもよく、水素原子、ハロゲン原子、アルキル基、シクロアルキル基、アリール基またはアラルキル基を示すか、あるいは同一のもしくは異なる炭素原子に結合したV'とW'が相互に連結して炭素单環構造を形成しており、kは2~10の整数である。）で表される基を形成している。】

【0114】前記オキシムスルホネート化合物としては、例えば、下記一般式（B4-1）または一般式（B4-2）で表される化合物を挙げることができる。

【0115】

【化18】



【一般式（B4-1）および一般式（B4-2）において、各〔RA〕は相互に独立に前記一般式（B1）における〔RA〕と同義であり、各R<sup>7</sup>は相互に独立に1価の有機基を示す。】

【0116】一般式（B4-1）および一般式（B4-2）において、R<sup>7</sup>の具体例としては、メチル基、エチル基、n-プロピル基、フェニル基、トリル基等を挙げることができる。

【0117】前記ヒドラジンスルホネート化合物としては、例えば、ビス（ベンゼン）スルホニルヒドラジン、ビス（p-トルエン）スルホニルヒドラジン、ビス（トリフルオロメタン）スルホニルヒドラジン、ビス（ノナフルオロ-n-ブタン）スルホニルヒドラジン、ビス（n-プロパン）スルホニルヒドラジン、ベンゼンスルホニルヒドラジン、p-トルエンスルホニルヒドラジン、トリフルオロメタンスルホニルヒドラジン、ノナフルオロ-n-ブタンスルホニルヒドラジン、n-プロパンスルホニルヒドラジン、トリフルオロメタンスルホニル・p-トルエンスルホニルヒドラジン等を挙げることができる。

【0118】好ましい酸発生剤（B）の具体例としては、ジフェニルヨードニウムトリフルオロメタンスルホネート、ジフェニルヨードニウムノナフルオロ-n-ブタンスルホネート、ジフェニルヨードニウムパーカルオロ-n-オクタンスルホネート、ジフェニルヨードニウム2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、ジフェニルヨードニウム2-(5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、ジフェニルヨードニウム2-(6-ヒドロキシビシクロ[2.

2, 1] ヘプタン-2-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、ジフェニルヨードニウム2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、ジフェニルヨードニウム2-(9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、ジフェニルヨードニウム2-(10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、

【0119】ジフェニルヨードニウムN, N-ビス(トリフルオロメタンスルホニル)イミデート、ジフェニルヨードニウムN, N-ビス(ペンタフルオロエタンスルホニル)イミデート、ジフェニルヨードニウムN, N-ビス(ヘプタフルオロ-n-プロパンスルホニル)イミデート、ジフェニルヨードニウムN, N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミデート、ジフェニルヨードニウムベンゼンスルホネート、ジフェニルヨードニウム4-トリフルオロメチルベンゼンスルホネット、ジフェニルヨードニウム2, 4-ジフルオロベンゼンスルホネット、ジフェニルヨードニウム2, 3, 4, 5, 6-ペンタフルオロベンゼンスルホネット、ジフェニルヨードニウム10-カンファースルホネット、

【0120】ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウムトリフルオロメタンスルホネート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウムノナフルオロ-n-ブタンスルホネート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウムパーカンスルホネット、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウム2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウム2-(5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウム2-(6-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウム2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウム2-(9-ヒドロキシテトラシクロ[6.

2. 1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1,

1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウム2-(10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、

【0121】ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニ

ウムN, N-ビス(トリフルオロメタンスルホニル)イミデート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウムN, N-ビス(ペンタフルオロエタンスルホニル)イミデート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウムN, N-ビス(ヘプタフルオロ-n-プロパンスルホニル)イミデート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウムN, N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミデート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウムベンゼンスルホネート、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウム4-トリフルオロメチルベンゼンスルホネット、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウム2, 4-ジフルオロベンゼンスルホネット、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウム2, 3, 4, 5, 6-ペンタフルオロベンゼンスルホネット、ビス(4-t-ブチルフェニル)ヨードニウム10-カンファースルホネット、

【0122】トリフェニルスルホニウムトリフルオロメタンスルホネート、トリフェニルスルホニウムノナフルオロ-n-ブタンスルホネート、トリフェニルスルホニウムパーカンスルホネット、トリフェニルスルホニウム2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、トリフェニルスルホニウム2-(5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、トリフェニルスルホニウム2-(6-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、トリフェニルスルホニウム2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、トリフェニルスルホニウム2-(9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、トリフェニルスルホニウム2-(10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、

【0123】トリフェニルスルホニウムN, N-ビス(トリフルオロメタンスルホニル)イミデート、トリフェニルスルホニウムN, N-ビス(ペンタフルオロエタンスルホニル)イミデート、トリフェニルスルホニウムN, N-ビス(ヘプタフルオロ-n-プロパンスルホニル)イミデート、トリフェニルスルホニウムN, N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミデート、トリフェニルスルホニウムベンゼンスルホネット、トリフェニルスルホニウム4-トリフルオロメチルベンゼンスルホネット、トリフェニルスルホニウム2, 4-ジフルオロベンゼンスルホネット、トリフェニルスルホニウム2, 3, 4, 5, 6-ペンタフルオロベンゼンス

ルホネート、トリフェニルスルホニウム 10-カントン  
ースルホネート、  
【0124】ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル  
・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホ  
ニウムトリフルオロメタンスルホネート、ビシクロ  
[2.2.1]ヘプタン-2-イル・シクロヘキシル・  
2-オキソシクロヘキシルスルホニウムノナフルオロー  
n-ブタンスルホネート、ビシクロ[2.2.1]ヘプ  
タン-2-イル・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘ  
キシルスルホニウムパーフルオローn-オクタンスルホ  
ネート、ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル・  
シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホニウ  
ム 2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)  
-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホネ  
ト、ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル・シク  
ロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホニウム 2-  
(5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-  
-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスル  
ホネート、ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル  
・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホニ  
ウム 2-(6-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプ  
ト-2-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスル  
ホネート、ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル  
・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホニ  
ウム 2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ  
ン-4-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスル  
ホネート、ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル  
・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホニ  
ウム 2-(9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.  
1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ-4-イル)-1, 1,  
2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、  
【0125】ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル  
・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホ  
ニウム N, N-ビス(トリフルオロメタンスルホニル)  
イミデート、ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル  
・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホ  
ニウム N, N-ビス(ペンタフルオロエタンスルホニ  
ル)イミデート、ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-  
-イル・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルス  
ルホニウム N, N-ビス(ヘptaフルオローn-ブロパ  
ンスルホニル)イミデート、ビシクロ[2.2.1]ヘ  
プтан-2-イル・シクロヘキシル・2-オキソシクロ  
ヘキシルスルホニウム N, N-ビス(ノナフルオロー  
n-ブタンスルホニル)イミデート、ビシクロ[2.2.  
1]ヘプтан-2-イル・シクロヘキシル・2-オキソ

シクロヘキシルスルホニウムベンゼンスルホネート、ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホニウム4-トリフルオロメチルベンゼンスルホネート、ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホニウム2,4-ジフルオロベンゼンスルホネート、ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホニウム2,3,4,5,6-ペンタフルオロベンゼンスルホネート、ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル・シクロヘキシル・2-オキソシクロヘキシルスルホニウム10-カソファースルホネート、  
【0126】1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウムトリフルオロメタンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウムノナフルオロ-n-ブタンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウムパーフルオロ-n-オクタンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウム2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウム2-(5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウム2-(テラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウム2-(テラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウム2-(テラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(トリフルオロメタンスルホニル)イミデート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(ペンタフルオロエタンスルホニル)イミデート、1-[2-

(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウムN, N-ビス(ヘプタフルオロ-n-プロパンスルホニル)イミデート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウムN, N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミデート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウムベンゼンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウム4-トリフルオロメチルベンゼンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウム2, 4-ジフルオロベンゼンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウム2, 3, 4, 5, 6-ペンタフルオロベンゼンスルホネート、1-[2-(ナフタレン-1-イル)-2-オキソエチル]テトラヒドロチオフェニウム10-カンファースルホネート、

【0128】1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウムトリフルオロメタンスルホネート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウムパーフルオロ-n-オクタンスルホネート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウム2- (ビシクロ [2.2.1]ヘプタン-2-イル) -1, 1, 2, 2- テトラフルオロエタンスルホネート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウム2- (5-ヒドロキシビシクロ [2.2.1]ヘプタン-2-イル) -1, 1, 2, 2- テトラフルオロエタンスルホネート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウム2- (6-ヒドロキシビシクロ [2.2.1]ヘプтан-2-イル) -1, 1, 2, 2- テトラフルオロエタンスルホネート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウム2- (テトラシクロ [6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2- テトラフルオロエタンスルホネート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウム2- (9-ヒドロキシテトラシクロ [6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2- テトラフルオロエタンスルホネート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウム2- (10-ヒドロキシテトラシクロ [6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2- テトラフルオロエタンスルホネート、  
【0129】1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウムN, N-ビス (トリフルオロメタンスルホニル) イミデート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウムN, N-ビス (ペンタフルオロエタンスルホニル)

イミデート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウムN, N-ビス (ヘプタフルオロ-n-プロパンスルホニル) イミデート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウムN, N-ビス (ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル) イミデート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウムベンゼンスルホネート、ジフェニルヨードニウム4-トリフルオロメチルベンゼンスルホネート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウム2, 4-ジフルオロベンゼンスルホネート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウム2, 3, 4, 5, 6-ペンタフルオロベンゼンスルホネート、1- (4-ヒドロキシナフタレン-1-イル) テトラヒドロチオフェニウム10-カンファースルホネート、

【0130】1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウムトリフルオロメタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウムノナフルオロ-n-ブタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウムバーフルオロ-n-オクタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム2-(5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム2-(6-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム2-(9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム2-(10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、

【0131】1-(4-n-ブトキシナフタレン11-イル)テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(トリフルオロメタンスルホニル)イミデート、1-(4-n-ブトキシナフタレン11-イル)テトラヒドロチオフ

2,7 ] ドデカン-4-イル) -1, 1, 2, 2-テトラ  
フルオロエタンスルホネート、  
【0133】(4-n-ブトキシナフタレン-1-イ  
ル)-4-チオニアトリシクロ[ 5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup> ]  
デカンN, N-ビス(トリフルオロメタンスルホニル)  
イミデート、(4-n-ブトキシナフタレン-1-イ  
ル)-4-チオニアトリシクロ[ 5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup> ]  
デカンN, N-ビス(ペンタフルオロエタンスルホニ  
ル)イミデート、(4-n-ブトキシナフタレン-1-イ  
ル)-4-チオニアトリシクロ[ 5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup> ]  
デカンN, N-ビス(ヘプタフルオロ-n-ブロ  
パンスルホニル)イミデート、(4-n-ブトキシナフ  
タレン-1-イル)-4-チオニアトリシクロ[ 5.  
2. 1. 0<sup>2,6</sup> ] デカンN, N-ビス(ノナフルオロ-n  
-ブタンスルホニル)イミデート、(4-n-ブトキ  
シナフタレン-1-イル)-4-チオニアトリシクロ[  
5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup> ] デカンベンゼンスルホネート、  
(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)-4-チオ  
ニアトリシクロ[ 5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup> ] デカン4-トリ  
フルオロメチルベンゼンスルホネート、(4-n-ブト  
キシナフタレン-1-イル)-4-チオニアトリシクロ  
[ 5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup> ] デカン2, 4-ジフルオロベン  
ゼンスルホネート、(4-n-ブトキシナフタレン-1  
-イル)-4-チオニアトリシクロ[ 5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup> ]  
デカン2, 3, 4, 5, 6-ペンタフルオロベン  
ゼンスルホネート、(4-n-ブトキシナフタレン-1  
-イル)-4-チオニアトリシクロ[ 5. 2. 1. 0<sup>2,6</sup> ]  
デカン10-カンファースルホネート、  
【0134】1-(3, 5-ジメチル-4-ヒドロキシ  
フェニル)テトラヒドロチオフェニウムトリフルオロメ  
タンスルホネート、1-(3, 5-ジメチル-4-ヒド  
ロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムノナフル  
オロ-n-ブタンスルホネート、1-(3, 5-ジメチ  
ル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニ  
ウムパーカルオロ-n-オクタンスルホネート、1-  
(3, 5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラ  
ヒドロチオフェニウム2-(ビシクロ[2. 2. 1]ヘ  
ブタン-2-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロ  
エタンスルホネート、1-(3, 5-ジメチル-4-ヒ  
ドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム2-  
(5-ヒドロキシビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-イ  
ル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホ  
ネート、1-(3, 5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)  
テトラヒドロチオフェニウム2-(テトラシクロ[ 6. 2.  
1. 1<sup>3,6</sup>. 0<sup>2,7</sup> ] ドデカン-4-イル)-1, 1,  
2, 2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-

(3, 5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウム2-(9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(3, 5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウム2-(10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、

【0135】1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(トリフルオロメタンスルホニル)イミデート、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(ペンタフルオロエタンスルホニル)イミデート、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(ヘプタフルオロ-n-プロパンスルホニル)イミデート、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミデート、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムベンゼンスルホネット、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム4-トリフルオロメチルベンゼンスルホネット、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム2,4-ジフルオロベンゼンスルホネット、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム2,3,4,5,6-ペンタフルオロベンゼンスルホネット、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム10-カンファースルホネット、

【0136】1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムトリフルオロメタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムノナフルオロ-n-ブタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムバーフルオロ-n-オクタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム2-(5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム2-(6-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(3,5-

ジメチル-4-ブトキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウム2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウム2-(9-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウム2-(10-ヒドロキシテトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、  
【0137】1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(トリフルオロメタンスルホニル)イミデート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(ペンタフルオロエタンスルホニル)イミデート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミデート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウムベンゼンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウム4-トリフルオロメチルベンゼンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウム2,4-ジフルオロベンゼンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ブトキシフェニル) テトラヒドロチオフェニウム10-カンファースルホネート、  
【0138】N-(トリフルオロメタンスルホニルオキシ)スクシンイミド、N-(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニルオキシ)スクシンイミド、N-(パーフルオロ-n-オクタンスルホニルオキシ)スクシンイミド、N-[2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]スクシンイミド、N-[2-(5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]スクシンイミド、N-[2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]スクシンイミド、N-[2-(9-ヒドロキシテトラシクロ[6.

2, 1, 1<sup>3,6</sup>, 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ] スクシンイミド、N-(2-(10-ヒドロキシテトラシクロ[6, 2, 1, 1<sup>3,6</sup>, 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ) スクシンイミド、N-(ベンゼンスルホニルオキシ) スクシンイミド、N-(4-トリフルオロメチルベンゼンスルホニルオキシ) スクシンイミド、N-(2, 4-ジフルオロベンゼンスルホニルオキシ) スクシンイミド、N-(2, 3, 4, 5, 6-ペンタフルオロベンゼンスルホニルオキシ) スクシンイミド、N-(10-カンファースルホニルオキシ) スクシンイミド、

【0139】N-(トリフルオロメタンスルホニルオキシ) ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニルオキシ) ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(パーフルオロ-n-オクタンスルホニルオキシ) ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-[2-(5-ヒドロキシビシクロ[2, 2, 1]ヘプタン-2-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ] ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-[2-(6-ヒドロキシビシクロ[2, 2, 1]ヘプタン-2-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ] ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-[2-(テトラシクロ[6, 2, 1, 1<sup>3,6</sup>, 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ] ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-[2-(9-ヒドロキシテトラシクロ[6, 2, 1, 1<sup>3,6</sup>, 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ] ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(ベンゼンスルホニルオキシ) ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(4-トリフルオロメチルベンゼンスルホニルオキシ) ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(2, 4-ジフルオロベンゼンスルホニルオキシ) ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(2, 3, 4, 5, 6-ペンタフルオロベンゼンスルホニルオキシ) ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(10-カンファースルホニルオキ

シ) ビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、

【0140】N-(トリフルオロメタンスルホニルオキシ)-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニルオキシ)-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(パーフルオロ-n-オクタンスルホニルオキシ)-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-[2-(ビシクロ[2, 2, 1]ヘプタン-2-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-[2-(5-ヒドロキシビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-2-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-[2-(6-ヒドロキシビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-2-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-[2-(テトラシクロ[6, 2, 1, 1<sup>3,6</sup>, 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-[2-(9-ヒドロキシテトラシクロ[6, 2, 1, 1<sup>3,6</sup>, 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-[2-(10-ヒドロキシテトラシクロ[6, 2, 1, 1<sup>3,6</sup>, 0<sup>2,7</sup>] ドデカン-4-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(ベンゼンスルホニルオキシ)-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(4-トリフルオロメチルベンゼンスルホニルオキシ)-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(2, 4-ジフルオロベンゼンスルホニルオキシ)-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(2, 3, 4, 5, 6-ペンタフルオロベンゼンスルホニルオキシ)-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(10-カンファースルホニルオキシ)-7-オキサビシクロ[2, 2, 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド等を挙げることができる。

【0141】これらの酸発生剤(B)のうち、さらに好

ましくは、ジフェニルヨードニウムトリフルオロメタンスルホネート、ジフェニルヨードニウムノナフルオロ-n-ブタンスルホネート、ジフェニルヨードニウムパフルオロ-n-オクタンスルホネート、ジフェニルヨードニウム2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、ジフェニルヨードニウム2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、ジフェニルヨードニウムN,N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミデート、ジフェニルヨードニウム10-カンファースルホネート、ビス(4-チーブチルフェニル)ヨードニウムトリフルオロメタンスルホネート、ビス(4-チーブチルフェニル)ヨードニウムパフルオロ-n-オクタンスルホネート、ビス(4-チーブチルフェニル)ヨードニウム2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、ビス(4-チーブチルフェニル)ヨードニウム2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、ビス(4-チーブチルフェニル)ヨードニウムN,N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミデート、ビス(4-チーブチルフェニル)ヨードニウム10-カンファースルホネート、

【0142】トリフェニルスルホニウムトリフルオロメタンスルホネート、トリフェニルスルホニウムノナフルオロ-n-ブタンスルホネート、トリフェニルスルホニウムパフルオロ-n-オクタンスルホネート、トリフェニルスルホニウム2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、トリフェニルスルホニウム2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、トリフェニルスルホニウムN,N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミデート、トリフェニルスルホニウム10-カンファースルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウムトリフルオロメタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウムノナフルオロ-n-ブタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウムパフルオロ-n-オクタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチ

オフェニウム2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミデート、1-(4-n-ブトキシナフタレン-1-イル)テトラヒドロチオフェニウム10-カンファースルホネート、

【0143】1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムトリフルオロメタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムノナフルオロ-n-ブタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムパフルオロ-n-オクタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウム2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホネート、1-(3,5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニル)テトラヒドロチオフェニウムN,N-ビス(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニル)イミデート、ビス(4-チーブチルフェニル)テトラヒドロチオフェニウム10-カンファースルホネート、N-(トリフルオロメタンスルホニルオキシ)スクシンイミド、N-(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニルオキシ)スクシンイミド、N-(パフルオロ-n-オクタンスルホニルオキシ)スクシンイミド、N-[2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]スクシンイミド、N-[2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカン-4-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]スクシンイミド、N-(10-カンファースルホニルオキシ)スクシンイミド、

【0144】N-(トリフルオロメタンスルホニルオキシ)ビシクロ[2.2.1]ヘプト-5-エン-2,3-ジカルボキシイミド、N-(ノナフルオロ-n-ブタンスルホニルオキシ)ビシクロ[2.2.1]ヘプト-5-エン-2,3-ジカルボキシイミド、N-(パフルオロ-n-オクタンスルホニルオキシ)ビシクロ[2.2.1]ヘプト-5-エン-2,3-ジカルボキシイミド、N-[2-(ビシクロ[2.2.1]ヘプтан-2-イル)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホニルオキシ]ビシクロ[2.2.1]ヘプト-5-エン-2,3-ジカルボキシイミド、N-[2-(テトラシクロ[6.2.1.1<sup>3,6</sup>.0<sup>2,7</sup>]ドデカ

ン-4-イル)-1, 1, 2, 2-テトラフルオロエタノスルホニルオキシ]ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド、N-(10-カンファースルホニルオキシ)ビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-5-エン-2, 3-ジカルボキシイミド等である。

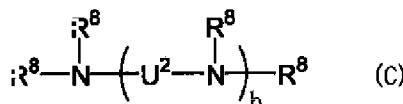
【0145】本発明の感放射線性樹脂組成物において、酸発生剤(B)は、単独でまたは2種以上を混合して使用することができる。酸発生剤(B)の使用量は、レジストとしての感度および現像性を確保する観点から、共重合体(A)100重量部に対して、好ましくは0.1～20重量部、さらに好ましくは0.1～7重量部である。この場合、酸発生剤(B)の使用量が0.1重量部未満では、レジストとしての感度および現像性が低下する傾向があり、一方10重量部を超えると、放射線に対する透明性が低下して、矩形のレジストパターンを得られ難くなる傾向がある。

#### 【0146】-各種添加剤-

本発明の感放射線性樹脂組成物には、露光により酸発生剤(B)から生じる酸のレジスト被膜中における拡散現象を制御し、非露光領域における好ましくない化学反応を抑制する作用を有する酸拡散制御剤を配合することが好ましい。このような酸拡散制御剤を配合することにより、得られる感放射線性樹脂組成物の貯蔵安定性がさらに向上し、またレジストとしての解像度がさらに向上するとともに、露光から現像処理までの引き置き時間(PED)の変動によるレジストパターンの線幅変化を抑えることができ、プロセス安定性に極めて優れた組成物が得られる。酸拡散制御剤としては、レジストパターンの形成工程中の露光や加熱処理により塩基性が変化しない含窒素有機化合物が好ましい。このような含窒素有機化合物としては、例えば、下記一般式(C)で表される化合物(以下、「酸拡散制御剤(C)」という。)を挙げることができる。

#### 【0147】

#### 【化19】



〔一般式(C)において、各R<sup>8</sup>は相互に独立に水素原子、直鎖状、分岐状もしくは環状のアルキル基、アリール基またはアラルキル基を示し、これらのアルキル基、アリール基およびアラルキル基は水酸基等の官能基で置換されていてもよく、U<sup>2</sup>は2価の有機基を示し、bは0～2の整数である。〕

【0148】酸拡散制御剤(C)において、b=0の化合物を「含窒素化合物(α)」とし、b=1～2の化合物を「含窒素化合物(β)」とする。また、窒素原子を3個以上有するポリアミノ化合物および重合体をまとめ

て「含窒素化合物(γ)」とする。さらに、酸拡散制御剤(C)以外の含窒素有機化合物としては、例えば、4級アンモニウムヒドロキシド化合物、アミド基含有化合物、ウレア化合物、含窒素複素環化合物等を挙げることができる。

【0149】含窒素化合物(α)としては、例えば、n-ヘキシリアルアミン、n-ヘプチルアミン、n-オクチルアミン、n-ノニルアミン、n-デシルアミン、シクロヘキシリアルアミン等のモノ(シクロ)アルキルアミン類；ジ-n-ブチルアミン、ジ-n-ペンチルアミン、ジ-n-ヘキシリアルアミン、ジ-n-ヘプチルアミン、ジ-n-オクチルアミン、ジ-n-ノニルアミン、ジ-n-デシルアミン、シクロヘキシリルメチルアミン、ジシクロヘキシリルアミン等のジ(シクロ)アルキルアミン類；トリエチルアミン、トリ-n-プロピルアミン、トリ-n-ブチルアミン、トリ-n-ペンチルアミン、トリ-n-ヘキシリアルアミン、トリ-n-ヘプチルアミン、トリ-n-オクチルアミン、トリ-n-ノニルアミン、トリ-n-デシルアミン、シクロヘキシリルジメチルアミン、ジシクロヘキシリルメチルアミン、トリシクロヘキシリルアミン等のトリ(シクロ)アルキルアミン類；アニリン、N-メチルアニリン、N, N-ジメチルアニリン、2-メチルアニリン、3-メチルアニリン、4-メチルアニリン、4-ニトロアニリン、2, 6-ジメチルアニリン、2, 6-ジイソプロピルアニリン、ジフェニルアミン、トリフェニルアミン、ナフチルアミン等の芳香族アミン類を挙げることができる。

【0150】含窒素化合物(β)としては、例えば、エチレンジアミン、N, N, N', N'-テトラメチルエチレンジアミン、N, N, N', N'-テトラキス(2-ヒドロキシプロピル)エチレンジアミン、テトラメチレンジアミン、1, 3-ビス[1-(4-アミノフェニル)-1-メチルエチル]ベンゼンテトラメチレンジアミン、ヘキサメチレンジアミン、4, 4'-ジアミノジフェニルメタン、4, 4'-ジアミノジフェニルエーテル、4, 4'-ジアミノベンゾフェノン、4, 4'-ジアミノジフェニルアミン、2, 2-ビス(4-アミノフェニル)プロパン、2-(3-アミノフェニル)-2-(4-アミノフェニル)プロパン、2-(4-アミノフェニル)-2-(3-ヒドロキシフェニル)プロパン、2-(4-アミノフェニル)-2-(4-ヒドロキシフェニル)プロパン、1, 4-ビス[1-(4-アミノフェニル)-1-メチルエチル]ベンゼン、1, 3-ビス[1-(4-アミノフェニル)-1-メチルエチル]ベンゼン、ビス(2-ジメチルアミノエチル)エーテル、ビス(2-ジエチルアミノエチル)エーテル等を挙げることができる。含窒素化合物(γ)としては、例えば、ポリエチレンイミン、ポリアリルアミン、2-ジメチルアミノエチルアクリルアミドの重合体等を挙げができる。前記4級アンモニウムヒドロキシド化合物とし

ては、例えば、テトラメチルアンモニウムヒドロキシド、テトラエチルアンモニウムヒドロキシド、テトラン-プロピルアンモニウムヒドロキシド、テトラン-n-ブチルアンモニウムヒドロキシド等を挙げることができる。

【0151】前記アミド基含有化合物としては、例えば、N-t-ブトキシカルボニルジ-n-オクチルアミン、N-t-ブトキシカルボニルジ-n-ノニルアミン、N-t-ブトキシカルボニルジ-n-デシルアミン、N-t-ブトキシカルボニルジクロヘキシリルアミン、N-t-ブトキシカルボニル-1-アダマンチルアミン、N-t-ブトキシカルボニル-N-メチル-1-アダマンチルアミン、N,N-ジ-t-ブトキシカルボニル-1-アダマンチルアミン、N,N-ジ-t-ブトキシカルボニル-1-アダマンチルアミン、N,N-ジ-t-ブトキシカルボニル-1-アダマンチルアミン、N,N-ジ-t-ブトキシカルボニル-4,4'-ジアミノジフェニルメタン、N,N'-ジ-t-ブトキシカルボニルヘキサメチレンジアミン、N,N,N',N'-テトラ-t-ブトキシカルボニルヘキサメチレンジアミン、N,N'-ジ-t-ブトキシカルボニル-1,7-ジアミノヘプタン、N,N'-ジ-t-ブトキシカルボニル-1,8-ジアミノオクタン、N,N'-ジ-t-ブトキシカルボニル-1,9-ジアミノノナン、N,N'-ジ-t-ブトキシカルボニル-4,4'-ジアミノジフェニルメタン、N-t-ブトキシカルボニルベンズイミダゾール、N-t-ブトキシカルボニル-2-メチルベンズイミダゾール、N-t-ブトキシカルボニル-2-フェニルベンズイミダゾール等のN-t-ブトキシカルボニル基含有アミノ化合物のほか、ホルムアミド、N-メチルホルムアミド、N,N-ジメチルホルムアミド、アセトアミド、N-メチルアセトアミド、N,N-ジメチルアセトアミド、プロピオンアミド、ベンズアミド、ピロリドン、N-メチルピロリドン等を挙げることができる。

【0152】前記ウレア化合物としては、例えば、尿素、メチルウレア、1,1-ジメチルウレア、1,3-ジメチルウレア、1,1,3,3-テトラメチルウレア、1,3-ジフェニルウレア、トリ-n-ブチルチオウレア等を挙げることができる。前記含窒素複素環化合物としては、例えば、イミダゾール、4-メチルイミダゾール、1-ベンジル-2-メチルイミダゾール、4-メチル-2-フェニルイミダゾール、ベンズイミダゾール、2-フェニルベンズイミダゾール等のイミダゾール類；ビリジン、2-メチルビリジン、4-メチルビリジン、2-エチルビリジン、4-エチルビリジン、2-フェニルビリジン、4-フェニルビリジン、2-メチル-4-フェニルビリジン、ニコチン、ニコチン酸、ニコチン酸アミド、キノリン、4-ヒドロキシキノリン、8-

オキシキノリン、アクリジン等のピリジン類；ピペラジン、1-(2-ヒドロキシエチル)ピペラジン等のピペラジン類のほか、ピラジン、ピラゾール、ピリダジン、キノザリン、プリン、ピロリジン、ピペリジン、3-ビペリジノ-1,2-ブロパンジオール、モルホリン、4-メチルモルホリン、1,4-ジメチルピペラジン、1,4-ジアザビシクロ[2.2.2]オクタン等を挙げができる。

【0153】これらの酸拡散制御剤は、単独でまたは2種以上を混合して使用することができる。酸拡散制御剤の配合量は、共重合体(A)100重量部に対して、通常、15重量部以下、好ましくは10重量部以下、さらに好ましくは5重量部以下である。この場合、酸拡散制御剤の配合量が15重量部を超えると、レジストとしての感度や露光部の現像性が低下する傾向がある。なお、酸拡散制御剤の配合量が0.001重量部未満であると、プロセス条件によっては、レジストとしてのパターン形状や寸法忠実度が低下するおそれがある。

【0154】また、本発明の感放射線性樹脂組成物には、ドライエッキング耐性、パターン形状、基板との接着性等をさらに改善する作用を示す添加剤を配合することができ、該添加剤は酸解離性基を有することができる。このような添加剤としては、例えば、アダマンタン-1-カルボン酸t-ブチル、アダマンタン-1-カルボン酸t-ブトキシカルボニルメチル、アダマンタン-1-カルボン酸α-ブチロラクトンエステル、アダマンタン-1,3-ジカルボン酸ジ-t-ブチル、アダマンタン-1-酢酸t-ブチル、アダマンタン-1-酢酸t-ブトキシカルボニルメチル、アダマンタン-1,3-ジ酢酸ジ-t-ブチル、2,5-ジメチル-2,5-ジ(アダマンタン-1-イルカルボニルオキシ)ヘキサン等のアダマンタン誘導体類；デオキシコール酸t-ブチル、デオキシコール酸t-ブトキシカルボニルメチル、デオキシコール酸2-エトキシエチル、デオキシコール酸2-シクロヘキシリオキシエチル、デオキシコール酸3-オキソシクロヘキシリル、デオキシコール酸テトラヒドロピラニル、デオキシコール酸メバロノラクトンエステル等のデオキシコール酸エステル類；リトコール酸t-ブチル、リトコール酸t-ブトキシカルボニルメチル、リトコール酸2-エトキシエチル、リトコール酸2-シクロヘキシリオキシエチル、リトコール酸3-オキソシクロヘキシリル、リトコール酸テトラヒドロピラニル、リトコール酸メバロノラクトンエステル等のリトコール酸エステル類；アジピン酸ジメチル、アジピン酸ジエチル、アジピン酸時プロビル、アジピン酸ジn-ブチル、アジピン酸ジt-ブチル等のアルキルカルボン酸エステル類；等を挙げができる。これらの添加剤は、単独でまたは2種以上を混合して使用することができる。前記添加剤の配合量は、共重合体(A)100重量部に対して、通常、50重量部以下、好ましくは30

重量部以下である。この場合、該添加剤の配合量が50重量部を超えると、レジストとしての耐熱性が低下する傾向がある。

【0155】また、本発明の感放射線性樹脂組成物には、塗布性、現像性等を改良する作用を示す界面活性剤を配合することができる。前記界面活性剤としては、例えば、ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンステアリルエーテル、ポリオキシエチレンオレイルエーテル、ポリオキシエチレンn-オクチルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンn-ノニルフェニルエーテル、ポリエチレングリコールジラウレート、ポリエチレングリコールジステアレート等のノニオン系界面活性剤のほか、以下商品名で、KP341（信越化学工業（株）製）、ポリフローNo. 75、同No. 95（共栄社化学（株）製）、エフトップEF301、同EF303、同EF352（トーケムプロダクト（株）製）、メガファックスF171、同F173（大日本インキ化学工業（株）製）、フロラードFC430、同FC431（住友スリーエム（株）製）、アサヒガードAG710、サーフロンS-382、同SC-101、同SC-102、同SC-103、同SC-104、同SC-105、同SC-106（旭硝子（株）製）等を挙げることができる。これらの界面活性剤は、単独でまたは2種以上を混合して使用することができる。前記界面活性剤の配合量は、共重合体（A）と酸発生剤（B）との合計100重量部に対して、通常、2重量部以下である。

【0156】また、本発明の感放射線性樹脂組成物には、感度等を改良する作用を示す増感剤を配合することができる。好ましい増感剤としては、例えば、カルバゾール類、ベンゾフェノン類、ローズベンガル類、アントラセン類、フェノール類等を挙げることができる。これらの増感剤は、単独でまたは2種以上を混合して使用することができる。増感剤の配合量は、共重合体（A）100重量部当り、好ましくは50重量部以下である。さらに、前記以外の添加剤としては、ハレーション防止剤、接着助剤、保存安定化剤、消泡剤等を挙げができる。

#### 【0157】組成物溶液の調製

本発明の感放射線性樹脂組成物は、普通、その使用に際して、全固形分濃度が、通常、3～50重量%、好ましくは5～25重量%となるように、溶剤に溶解したのち、例えば孔径0.2μm程度のフィルターでろ過することによって、組成物溶液として調製される。前記組成物溶液の調製に使用される溶剤としては、例えば、2-ブタノン、2-ペンタノン、3-メチル-2-ブタノン、2-ヘキサン、4-メチル-2-ペンタノン、3-メチル-2-ペンタノン、3,3-ジメチル-2-ブタノン、2-ヘプタノン、2-オクタノン等の直鎖状もしくは分岐状のケトン類；シクロペンタノン、3-メチ

ルシクロペンタノン、シクロヘキサン、2-メチルシクロヘキサン、2,6-ジメチルシクロヘキサン、イソホロン等の環状のケトン類；プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノエチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノ-n-プロピルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノ-i-ブチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノ-s e c-ブチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノ-t-ブチルエーテルアセテート等のプロピレングリコールモノアルキルエーテルアセテート類；2-ヒドロキシプロピオン酸メチル、2-ヒドロキシプロピオン酸n-ブロピル、2-ヒドロキシプロピオン酸i-ブロピル、2-ヒドロキシプロピオン酸n-ブチル、2-ヒドロキシプロピオン酸i-ブチル、2-ヒドロキシプロピオン酸s e c-ブチル、2-ヒドロキシプロピオン酸t-ブチル等の2-ヒドロキシプロピオン酸アルキル類；3-メトキシプロピオン酸メチル、3-メトキシプロピオン酸エチル、3-エトキシプロピオン酸メチル、3-エトキシプロピオン酸エチル等の3-アルコキシプロピオン酸アルキル類のほか、【0158】n-プロピルアルコール、i-プロピルアルコール、n-ブチルアルコール、t-ブチルアルコール、シクロヘキサン、エチレングリコールモノメチルエーテル、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノ-n-ブロピルエーテル、エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル、ジエチレングリコールジメチルエーテル、ジエチレングリコールジエチルエーテル、ジエチレングリコールジ-n-ブロピルエーテル、ジエチレングリコールジ-n-ブチルエーテル、エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノ-n-ブロピルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノメチルエーテル、プロピレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノ-n-ブロピルエーテル、トルエン、キシレン、2-ヒドロキシ-2-メチルプロピオン酸エチル、エトキシ酢酸エチル、ヒドロキシ酢酸エチル、2-ヒドロキシ-3-メチル酪酸メチル、3-メトキシブチルアセテート、3-メチル-3-メトキシブチルアセテート、3-メチル-3-メトキシブチルプロピオネート、3-メチル-3-メトキシブチルブチレート、酢酸エチル、酢酸n-ブロピル、酢酸n-ブチル、アセト酢酸メチル、アセト酢酸エチル、ビルビン酸メチル、ビルビン酸エチル、N-メチルビロリドン、N,N-ジメチルホルムアミド、N,N-ジメチルアセトアミド、ベンジルエチルエーテル、ジ-n-ヘキシリルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリ

コールモノエチルエーテル、カプロン酸、カプリル酸、1-オクタノール、1-ノナノール、ベンジルアルコール、酢酸ベンジル、安息香酸エチル、しゅう酸ジエチル、マレイン酸ジエチル、アーブチロラクトン、炭酸エチレン、炭酸プロピレン等を挙げることができる。

【0159】これらの溶剤は、単独でまたは2種以上を混合して使用することができるが、中でも、直鎖状もしくは分岐状のケトン類、環状のケトン類、プロピレングリコールモノアルキルエーテルアセテート類、2-ヒドロキシプロピオン酸アルキル類、3-アルコキシプロピオン酸アルキル類、アーブチロラクトン等が好ましい。

#### 【0160】レジストパターンの形成方法

本発明の感放射線性樹脂組成物は、特に化学增幅型レジストとして有用である。前記化学增幅型レジストにおいては、露光により酸発生剤(B)から発生した酸の作用によって、共重合体(A)中の酸解離性基が解離して、カルボキシル基を生じ、その結果、レジストの露光部のアルカリ現像液に対する溶解性が高くなり、該露光部がアルカリ現像液によって溶解、除去されることにより、ポジ型のレジストパターンが得られる。本発明の感放射線性樹脂組成物からレジストパターンを形成する際には、組成物溶液を、回転塗布、流延塗布、ロール塗布、スプレー塗布等の適宜の塗布手段によって、例えば、シリコンウエハー、アルミニウムで被覆されたウエハー等の基板上に塗布することにより、レジスト被膜を形成し、場合により予め加熱処理(以下、「PB」という。)を行ったのち、所定のレジストパターンを形成するように該レジスト被膜に露光する。その際に使用される放射線としては、例えば、紫外線、KrFエキシマレーザー(波長248nm)、ArFエキシマレーザー(波長193nm)、F<sub>2</sub>キシマレーザー(波長157nm)、EUV(極紫外線、波長13nm等)等の遠紫外線、電子線等の荷電粒子線、シンクロトロン放射線等のX線等を適宜選択して使用することができるが、これらのうち遠紫外線、電子線が好ましい。また、露光量等の露光条件は、感放射線性樹脂組成物の配合組成、各添加剤の種類等に応じて、適宜選定される。本発明においては、高精度の微細パターンを安定して形成するために、露光後に加熱処理(以下、「PEB」という。)を行うことが好ましい。このPEBにより、共重合体(A)中の酸解離性基の解離反応が円滑に進行する。PEBの加熱条件は、感放射線性樹脂組成物の配合組成によって変わるが、通常、30~200°C、好ましくは50~170°Cである。

【0161】本発明においては、感放射線性樹脂組成物の潜在能力を最大限に引き出すため、例えば特公平6-12452号公報等に開示されているように、使用される基板上有機系あるいは無機系の反射防止膜を形成しておくことができ、また環境雰囲気中に含まれる塩基性不純物等の影響を防止するため、例えば特開平5-18

8598号公報等に開示されているように、レジスト被膜上に保護膜を設けることもでき、あるいはこれらの技術を併用することもできる。次いで、露光されたレジスト被膜を現像することにより、所定のレジストパターンを形成する。現像に使用される現像液としては、例えば、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、炭酸ナトリウム、けい酸ナトリウム、メタけい酸ナトリウム、アンモニア水、エチルアミン、n-プロピルアミン、ジエチルアミン、ジ-n-プロピルアミン、トリエチルアミン、メチルジエチルアミン、エチルジメチルアミン、トリエタノールアミン、テトラメチルアンモニウムヒドロキシド、ピロール、ピペリジン、コリン、1,8-ジアザビシクロ[5.4.0]-7-ウンデセン、1,5-ジアザビシクロ[4.3.0]-5-ノネン等のアルカリ性化合物の少なくとも1種を溶解したアルカリ性水溶液が好ましい。前記アルカリ性水溶液の濃度は、通常、10重量%以下である。この場合、アルカリ性水溶液の濃度が10重量%を超えると、非露光部も現像液に溶解するおそれがあり好ましくない。

【0162】また、前記アルカリ性水溶液からなる現像液には、有機溶媒を添加することもできる。前記有機溶媒としては、例えば、アセトン、メチルエチルケトン、メチル-i-ブチルケトン、シクロヘキサン、シクロヘキサノン、3-メチルシクロヘキサン、2,6-ジメチルシクロヘキサン等の直鎖状、分岐状もしくは環状のケトン類；メチルアルコール、エチルアルコール、n-プロピルアルコール、i-プロピルアルコール、n-ブチルアルコール、セーブチルアルコール、シクロヘキサンノール、シクロヘキサノール、1,4-ヘキサンジオール、1,4-ヘキサンジメチロール等のアルコール類；テトラヒドロフラン、ジオキサン等のエーテル類；酢酸エチル、酢酸n-ブチル、酢酸i-アミル等のエステル類；トルエン、キシレン等の芳香族炭化水素類や、フェノール、アセトニルアセトン、ジメチルホルムアミド等を挙げることができる。これらの有機溶媒は、単独でまたは2種以上を混合して使用することができる。有機溶媒の使用量は、アルカリ性水溶液に対して、100容量%以下が好ましい。この場合、有機溶媒の使用量が100容量%を超えると、現像性が低下して、露光部の現像残りが多くなるおそれがある。また、アルカリ性水溶液からなる現像液には、界面活性剤等を適量添加することもできる。なお、アルカリ性水溶液からなる現像液で現像したのちは、一般に、水で洗浄して乾燥する。

#### 【0163】

【発明の実施の形態】以下、実施例を挙げて、本発明の実施の形態をさらに具体的に説明する。但し、本発明は、これらの実施例に何ら制約されるものではない。ここで、部は、特記しない限り重量基準である。実施例および比較例における各測定・評価は、下記の要領で行った。

Mw: 東ソー(株)製GPCカラム(G2000HXL 2本、G3000HXL 1本、G4000HXL 1本)を用い、流量1.0ミリリットル/分、溶出溶媒テトラヒドロフラン、カラム温度40°Cの分析条件で、单分散ポリスチレンを標準とするゲルパーキエーションクロマトグラフィー(GPC)により測定した。

放射線透過率: 組成物溶液を石英ガラス上にスピンドルにより塗布し、130°Cに保持したホットプレート上で60秒間PBを行って形成した膜厚0.34μmのレジスト被膜について、波長193nmにおける吸光度から、放射線透過率を算出して、遠紫外線領域における透明性の尺度とした。

【0164】感度: ウエハー表面に膜厚820ÅのARC25(ブルワー・サイエンス(BrewerScience)社製)膜を形成したシリコーンウエハー(ARC25)を用い、各組成物溶液を、基板上にスピンドルにより塗布し、ホットプレート上にて、表2に示す条件でPBを行って形成した膜厚0.34μmのレジスト被膜に、ニコン製ArFエキシマレーザー露光装置(開口数0.55)を用い、マスクパターンを介して、ArFエキシマレーザーを露光した。その後、表2に示す条件でPEBを行ったのち、2.38重量%のテトラメチルアンモニウムヒドロキシド水溶液により、25°Cで60秒間現像し、水洗し、乾燥して、ポジ型のレジストパターンを形成した。このとき、線幅0.16μmのライン・アンド・スペースパターン(1L1S)を1対1の線幅に形成する露光量を最適露光量とし、この最適露光量を感度とした。

解像度: 最適露光量で解像される最小のレジストパターンの寸法を、解像度とした。

【0165】ドライエッティング耐性: 組成物溶液をシリコーンウエハー上にスピンドルにより塗布し、乾燥して形成した膜厚0.5μmのレジスト被膜に対して、PMT社製ドライエッティング装置(Pinnacle8000)を用い、エッティングガスをCF<sub>4</sub>とし、ガス流量75sccm、圧力2.5mTorr、出力2,500Wの条件でドライエッティングを行って、エッティング速度を測定し、比較例2に使用した共重合体からなる被膜のエッティング速度に対する相対値により、相対エッティング速度を評価した。エッティング速度が小さいほど、ドライエッティング耐性に優れることを意味する。

【0166】密着性: 線幅0.16μmの最適露光量において、線幅0.15μmでスペースのピッチが異なるライン・アンド・スペースパターン(1L/1S、1L/1.2S、1L/1.5S、1L/2S、1L/3S、1L/5S、1L/10S)を形成したとき、全てのパターンが基板に密着している場合を良好とし、何れか1つ以上のパターンが基板から剥離した場合を不良とした。

保存安定性: 調製直後の組成物溶液に対する線幅0.1

6μmの最適露光量をE(1)とし、該組成物溶液を室温(25°C)で1ヶ月間引き置いたのちに計測した線幅0.16μmの最適露光量をE(2)としたとき、E(2)/E(1)≥0.95以上の場合を良好とし、E(2)/E(1)<0.95の場合を不良とした。

#### 【0167】合成例1

100ミリリットルの三口フラスコに、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-メチルシクロペンチル17.19g(70モル%)、下記式(ii-1)で表される化合物(以下、「単量体(ii-1)」という。)2.81g(30モル%)、プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート(PGMEA)15.0gを入れ、さらにセブチルバーオキシソプロピルモノカーボネートの7.5重量%炭化水素系溶液(日本油脂(株)製)10.47gを入れて、1時間窒素ページした。その後、反応溶液を攪拌しながら120°Cに保持して、6時間重合した。重合終了後、反応溶液を水冷することにより30°C以下に冷却して、PGMEA25gで希釈したのち、メタノール300g中へ投入し、析出した淡黄色粉末をろ別した。その後、炉別した淡黄色粉末をメタノール100gと混合する洗浄処理を2回行ったのち、ろ別し、50°Cにて17時間乾燥して、淡黄色粉末の樹脂9.02g(収率45.1重量%)を得た。この樹脂はMw5,000であり、<sup>13</sup>C-NMR測定により、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-メチルシクロペンチルおよび単量体(ii-1)の共重合モル比が64/36の共重合体であることが確認された。この樹脂を共重合体(A-1)とする。図1に共重合体(A-1)の<sup>13</sup>C-NMRスペクトルを示す。また、共重合体(A-1)の赤外吸収スペクトル分析により、ラクトン構造が存在することを確認した。ラクトン構造中のカルボニル基の吸収: 1774cm<sup>-1</sup>、エステル構造中のカルボニル基の吸収: 1724cm<sup>-1</sup>であった。図2に共重合体(A-1)の赤外吸収スペクトルを示す。

#### 【0168】

#### 【化20】



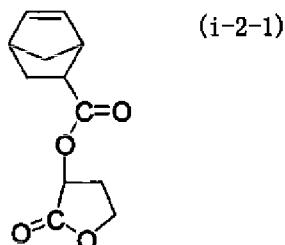
#### 【0169】合成例2

100ミリリットルの三口フラスコに、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-メチルシクロペンチル9.80g(40モル%)、単量体(ii-1)2.80g(30モル%)、下記式(i-2-1)で表される化合物(以下、「単量体(i-2-1)」といふ。)7.40g(30モル%)、プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート(PGMEA)15.0gを入れ、さらにセブチルバーオキシソプロピルモノカーボネートの7.5重量%炭化水素系溶液(日本油脂(株)

製) 10.47 g を入れて、1時間窒素バージした。その後、反応溶液を攪拌しながら120°Cに保持して、6時間重合した。重合終了後、反応溶液を水冷することにより30°C以下に冷却して、PGMEA 25 g で希釀したのち、メタノール300 g 中へ投入し、析出した淡黄色粉末をろ別した。その後、炉別した淡黄色粉末をメタノール100 g と混合する洗浄処理を2回行ったのち、ろ別し、50°Cにて17時間乾燥して、淡黄色粉末の樹脂10.24 g (収率51.2重量%)。この樹脂はMwが8,200であり、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-メチルシクロペンチル、単量体(iii-1)および単量体(i-2-1)の共重合モル比が39/29/32の共重合体であった。この樹脂を共重合体(A-2)とする。図3に共重合体(A-2)の<sup>13</sup>C-NMRスペクトルを示す。また、共重合体(A-2)の赤外吸収スペクトル分析により、ラクトン構造が存在することを確認した。ラクトン構造中のカルボニル基の吸収: 1788 cm<sup>-1</sup>、エステル構造中のカルボニル基の吸収: 1736 cm<sup>-1</sup>であった。図4に共重合体(A-2)の赤外吸収スペクトルを示す。

## 【0170】

## 【化21】



## 【0171】合成例3

100ミリリットルの三口フラスコに、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-メチルシクロペンチル11.54 g (55モル%)、5-ヒドロキシビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン1.05 g (10モル%)、単量体(i-2-1)7.41 g (35モル%)、プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート(PGMEA) 15.0 g を入れ、さらにn-ブチルパーオキシソプロピルモノカーボネートの75重量%炭化水素系溶液(日本油脂(株)製) 10.47 g を入れて、1時間窒素バージした。その後、反応溶液を攪拌しながら120°Cに保持して、6時間重合した。重合終了後、反応溶液を水冷することにより30°C以下に冷却して、PGMEA 25 g で希釀したのち、メタノール300 g 中へ投入し、析出した淡黄色粉末をろ別した。その後、炉別した淡黄色粉末をメタノール100 g と混合する洗浄処理を2回行ったのち、ろ別し、50°Cにて17時間乾燥して、淡黄色粉末の樹脂8.48 g (収率42.4重量%)。この樹脂はMwが8,100であり、ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-メチルシクロペンチル、5-ヒドロキ

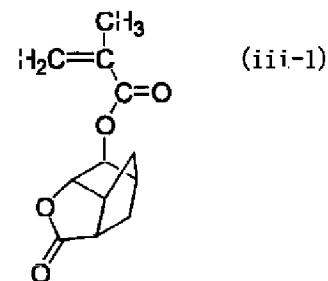
シビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エンおよび単量体(i-2-1)の共重合モル比が52/9/39の共重合体であった。この樹脂を共重合体(a-1)とする。

## 【0172】合成例4

メタクリル酸2-メチルアダマンタン-2-イル5.0, 5.5 g (50モル%)、メタクリル酸3-ヒドロキシアダマンタン-1-イル2.5, 4.9 g (25モル%)、下記式(iii-1)で表される化合物(以下、「単量体(iii-1)」という。)23.97 g (25モル%)を2-ブタノン200 g に溶解し、さらにアゾビスイソ吉草酸メチル3.97 g を添加した単量体溶液を準備した。別に、2-ブタノン100 g を入れた1,000ミリリットルの三口フラスコを30分間窒素バージしたのち、攪拌しながら80°Cに加熱して、前記単量体溶液を滴下漏斗を用い、10ミリリットル/5分の速度で滴下した。滴下開始時を重合開始時点とし、重合を5時間実施した。重合終了後、反応溶液を水冷して30°C以下に冷却したのち、メタノール2,000 g 中へ投入し、析出した白色粉末をろ別した。その後、ろ別した白色粉末をメタノール400 g と混合する洗浄操作を2回行ったのち、ろ別し、50°Cにて17時間乾燥して、白色粉末状の樹脂7.4 g (収率74重量%)を得た。この樹脂は、Mwが9,800であり、メタクリル酸2-メチルアダマンタン-2-イル、メタクリル酸3-ヒドロキシアダマンタン-1-イルおよび単量体(iii-1)の共重合モル比が45.2/25.6/29.2の共重合体であった。この樹脂を共重合体(a-2)とする。

## 【0173】

## 【化22】



## 【0174】合成例5

ビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-メチルシクロペンチル25.93 g、無水マレイン酸16.49 g、5-n-ブチルビシクロ[2.2.1]ヘプト-2-エン7.58 g、酢酸n-ブチル5.0 g を、窒素雰囲気下で混合して均一溶液としたのち、アゾビスイソ吉草酸ジメチル4.41 g を加えて、70°Cにて6時間重合した。重合終了後、反応溶液を冷却し、酢酸n-ブチル100 g を加えて均一溶液としたのち、n-ヘプタン500 g 中へ投入し、析出した樹脂をろ別して、洗浄し、真空乾燥することにより、樹脂4.0 g (収率80重量%)を得た。この樹脂は、Mwが6,600であり、<sup>13</sup>C-NMR測定により、ビシクロ

[2. 2. 1]ヘプト-2-エン-5-カルボン酸1-メチルシクロペンチル、無水マレイイン酸および5-n-ブチルビシクロ[2. 2. 1]ヘプト-2-エンの共重合モル比が32. 5/51. 2/16. 3の共重合体であった。この樹脂を共重合体(a-3)とする。

## 【0175】実施例1および比較例1~3

表1に示す成分からなる各組成物溶液について、各種評価を行った。評価結果を表3に示す。表1における共重合体(A-1)および共重合体(a-1)~(a-3)以外の成分は、以下のとおりである。

酸発生剤(B)

B-1: 1-(4-n-ブトキシナフタレン-2-イル)

テトラヒドロチオフェニウムノナフルオロ-n-ブタンスルホネート

酸拡散制御剤(C)

C-1: N-t-ブトキシカルボニル-2-フェニルベンズイミダゾール

溶剤

E-1: プロピレングリコールモノメチルエーテルアセート

E-2: 2-ヘプタノン

## 【0176】

## 【表1】

表1

	共重合体 (部)	酸発生剤(B) (部)	酸拡散制御剤(C) (部)	溶剤 (部)
実施例1	A-2(100)	B-1(5)	C-1(0.3)	E-1(600)
比較例1	a-1(100)	B-1(5)	C-1(0.3)	E-1(600)
比較例2	a-2(100)	B-1(5)	C-1(0.3)	E-2(600)
比較例3	a-3(100)	B-1(5)	C-1(0.3)	E-2(600)

## 【0177】

## 【表2】

表2

	レジスト被膜 の膜厚 (μm)	基板の種類	P B		PEB	
			温度(℃)	時間(秒)	温度(℃)	時間(秒)
実施例1	0.34	ARC25	130	90	130	90
比較例1	0.34	ARC25	130	90	130	90
比較例2	0.34	ARC25	130	90	130	90
比較例3	0.34	ARC25	130	90	130	90

## 【0178】

## 【表3】

表3

	放射線透過率(193nm) (%)	感度 (J/m <sup>2</sup> )	解像度 (μm)	ドライエッキング耐性	密着性	保存安定性
実施例1	71	222	0.13	0.9	良好	良好
比較例1	72	259	0.13	0.9	不良	良好
比較例2	70	224	0.13	1.2	良好	良好
比較例3	68	232	0.13	1.0	良好	不良

## 【0179】

【発明の効果】本発明の共重合体(A)を含有する感放射線性樹脂組成物は、活性放射線、特にArFエキシマレーザー(波長193nm)に代表される遠紫外線に感

応する化学増幅型レジストとして、放射線に対する透明性が高く、かつ感度、解像度等に優れ、またパターン形状も良好であり、レジストとして十分な基本特性を有するとともに、第一に、ノルボルナン骨格の含有比率が高

いため、ドライエッチング時のエッチング速度が従来のメタクリル系樹脂を用いたレジストに比べて小さく、かつエッチング後の表面平滑性も優れており、第二に、主鎖にラクトン骨格を有するため、ノルボルネン系繰り返し単位のみからなる付加重合系樹脂を用いたレジストに比べて、レジストとしての基板への密着性や現像性が著しく向上し、第三に、主鎖に無水マレイン酸に由来するような酸無水物構造をもたないため、ノルボルネンと無水マレイン酸との交互共重合系樹脂ないしそれに類する樹脂を用いたレジストのように水分による酸無水物構造の開環により促進されるレジストの経時的な劣化を来たすことがないため、保存安定性に優れている。したがって、本発明の感放射線性樹脂組成物は、現在一般に用いられているArFレジスト組成物の樹脂成分（（メタ）

アクリル系、交互重合系、付加重合系）の欠点を克服することができ、今後さらに微細化が進むと予想される半導体デバイスの製造に極めて好適に使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】合成例1で得た共重合体の $^{13}\text{C}$ -NMRスペクトルを示す図である。

【図2】合成例1で得た共重合体の赤外吸収スペクトルを示す図である。

【図3】合成例2で得た共重合体の $^{13}\text{C}$ -NMRスペクトルを示す図である。

【図4】合成例2で得た共重合体の赤外吸収スペクトルを示す図である。

【図1】

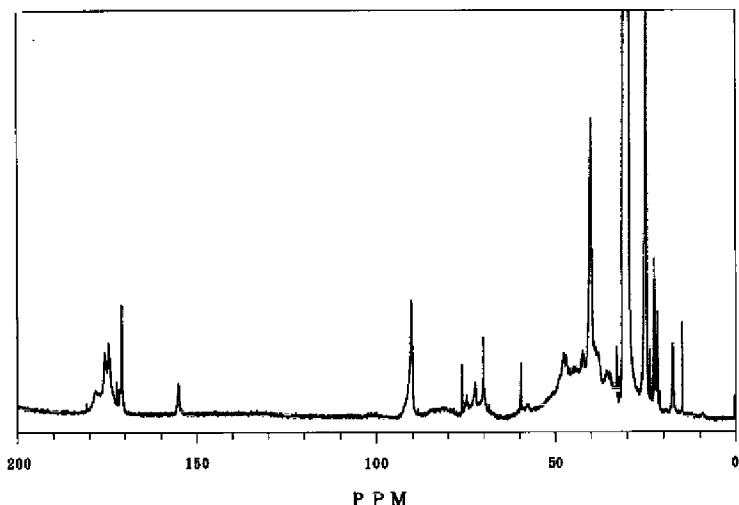


図 1

【図2】

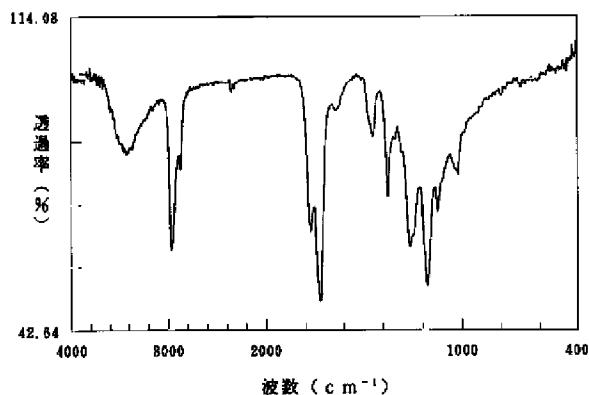


図 2

【図4】

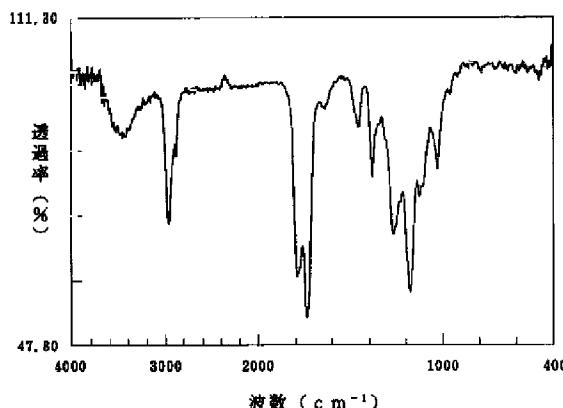


図 4

【図3】

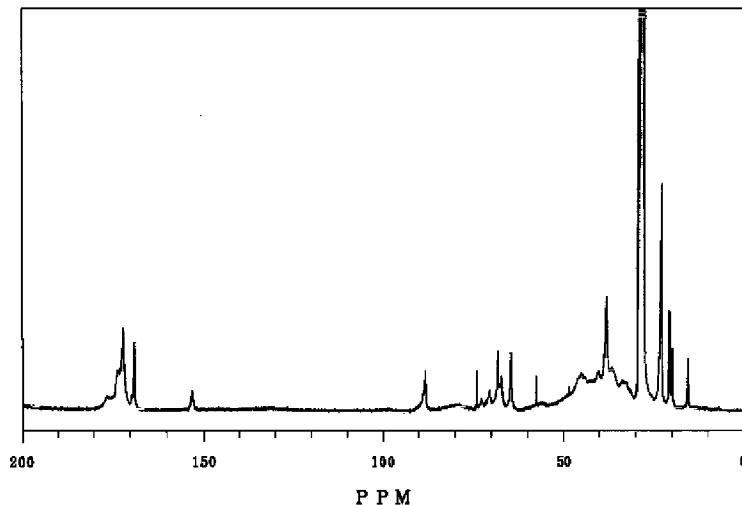


図 3

---

フロントページの続き

Fターム(参考) 2H025 AA01 AA02 AA03 AA04 AA09  
AA11 AA14 AB16 AC04 AC08  
AD03 BE00 BE10 BG00 CB08  
CB41 CB55 CB56 FA17  
4J015 BA05 BA06 BA07 BA08 BA10  
BA11  
4J100 AR09P AR11P AR32Q BA02P  
BA03P BA05P BA05Q BA06Q  
BA11P BA11Q BA15P BA16P  
BA20P BC02P BC03P BC04P  
BC07P BC08P BC09P BC53P  
CA04 CA05 DA01 DA04 DA28  
DA61 FA03 FA19 JA01 JA03  
JA32 JA38